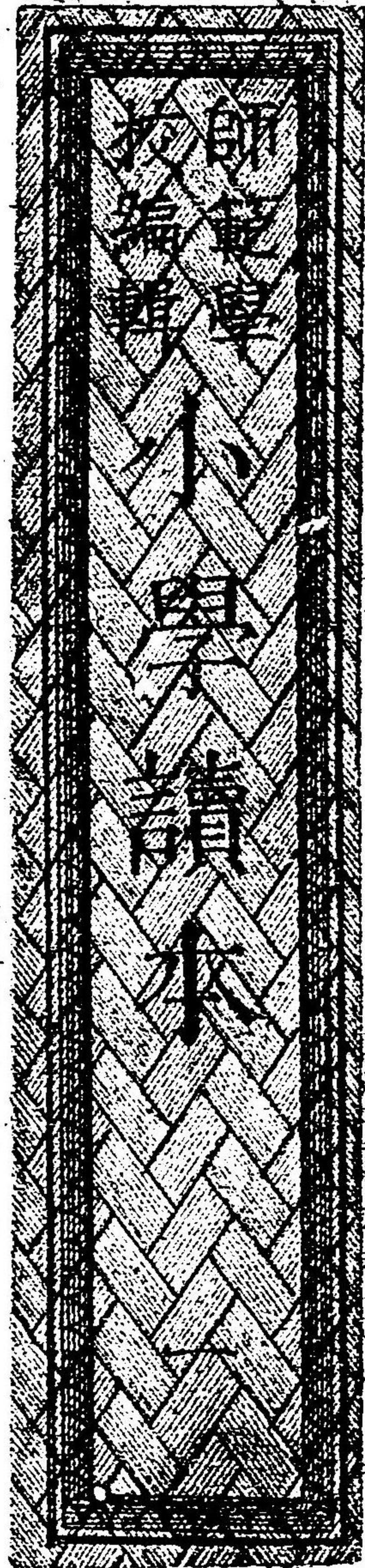


特71

491

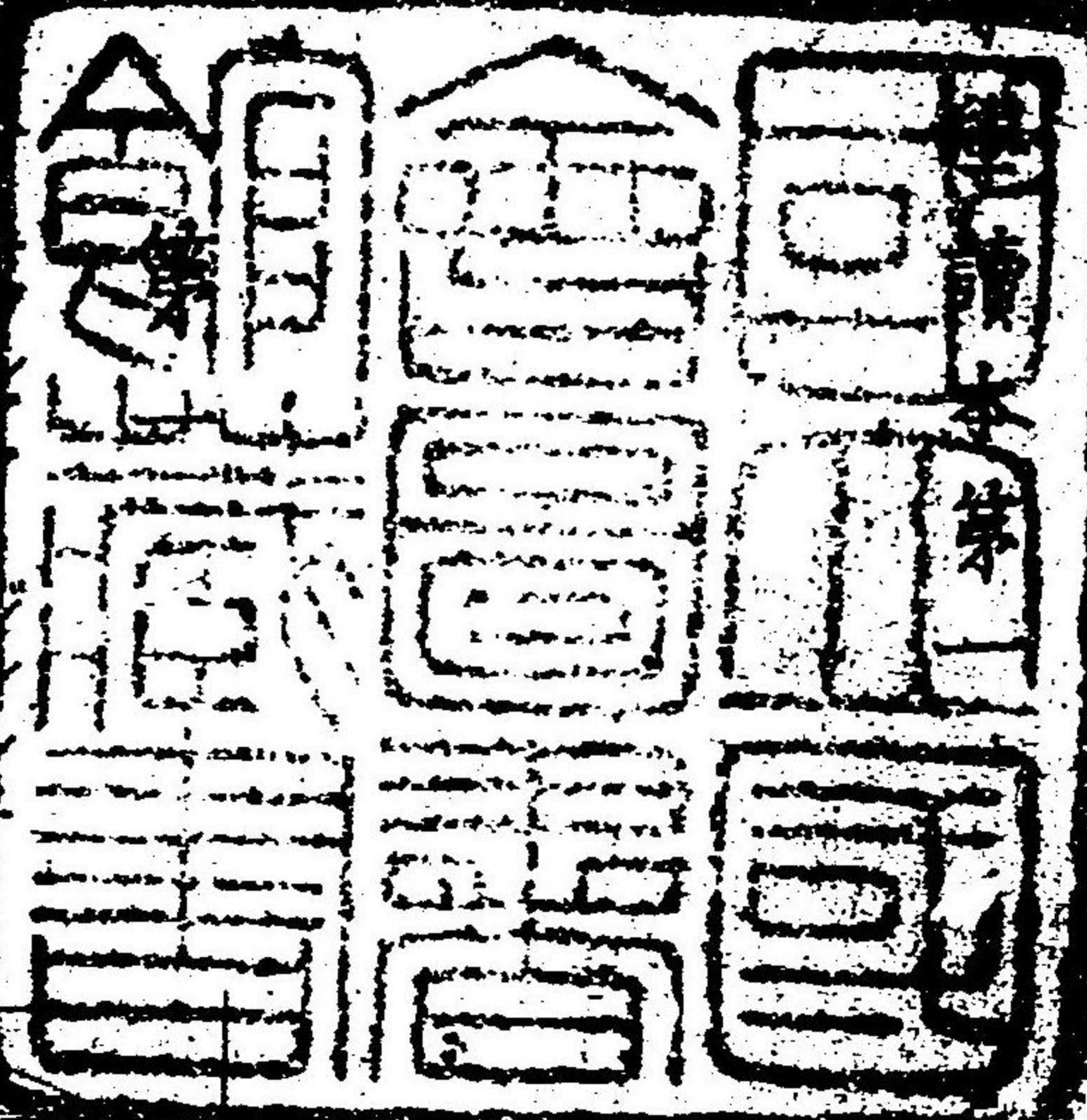


文部省編輯
師範學校

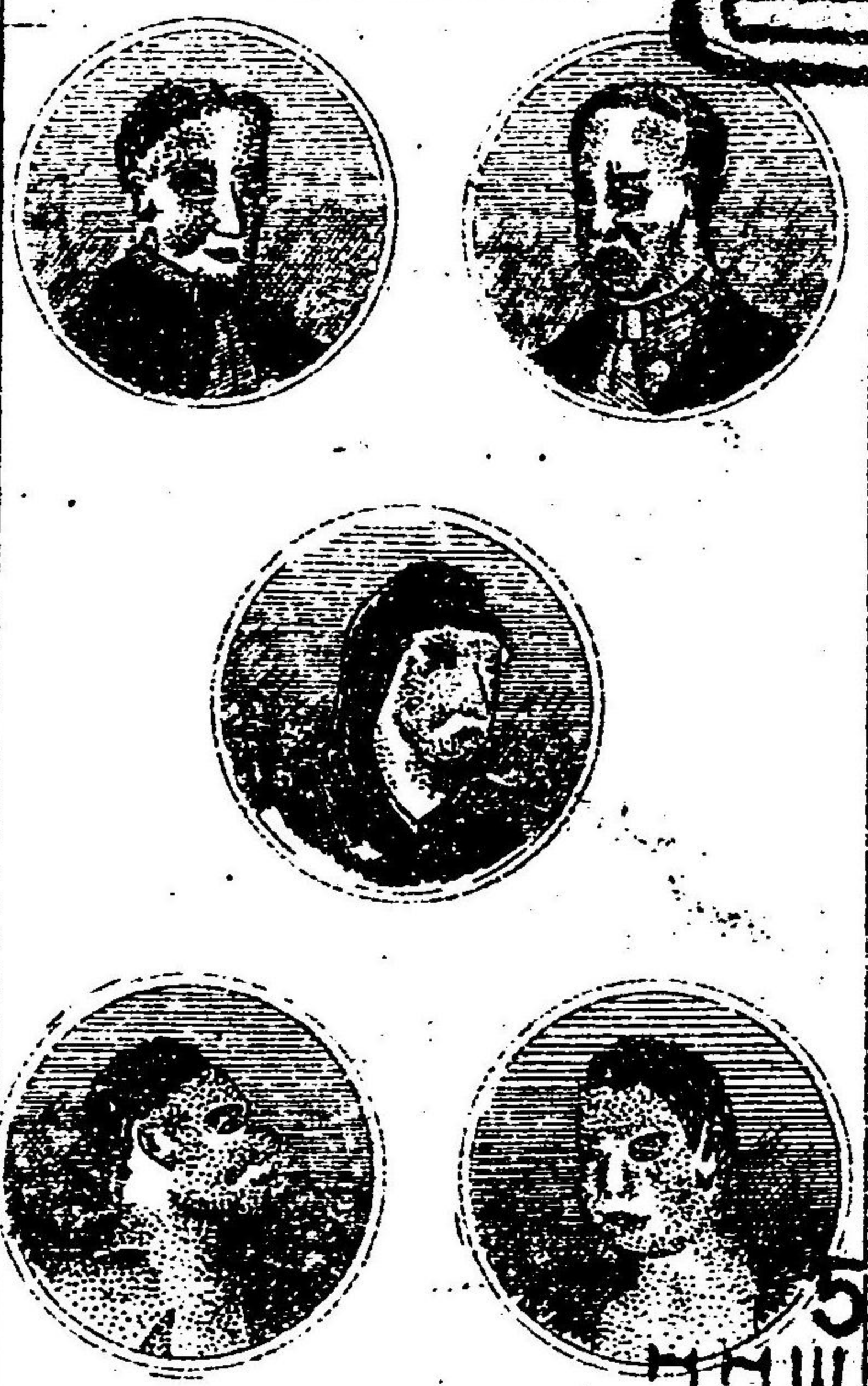
小學讀本一

明治七年
八月改正

案風舎藏



凡地球上の人種ハ
五ノ分モコリ、亞細
亞人種、歐羅巴人種、
馬來人種、亞米利加
人種、亞弗利加人種



特刊
491

田中義廉 編輯
那珂通高 校正

52. 6. 9
77W21710

小學讀本 卷之二

是コレあり、日本ニホン人ジンハ、亞細亞アジヤ人種ジンシユの中ウチなり

人ヒトハ賢カシコクきものヲ愚ヲロカクなるものトあるハ、多オホクく學マナぶし學マナバ

ざるト由ヨりてカシコク賢カシコクきものハ世ヨハ用モチめられテ愚ヲロカクふるものハ

人ヒトハ捨スてカシコクらるコト常ツネニの道ミチふまバ幼稚チヨチのトキより能ヨく學マナ

びテ賢カシコクきものトふり必カナラシク無用ムヨウの人ヒトとカシコクふるコトふカシコクるカシコク

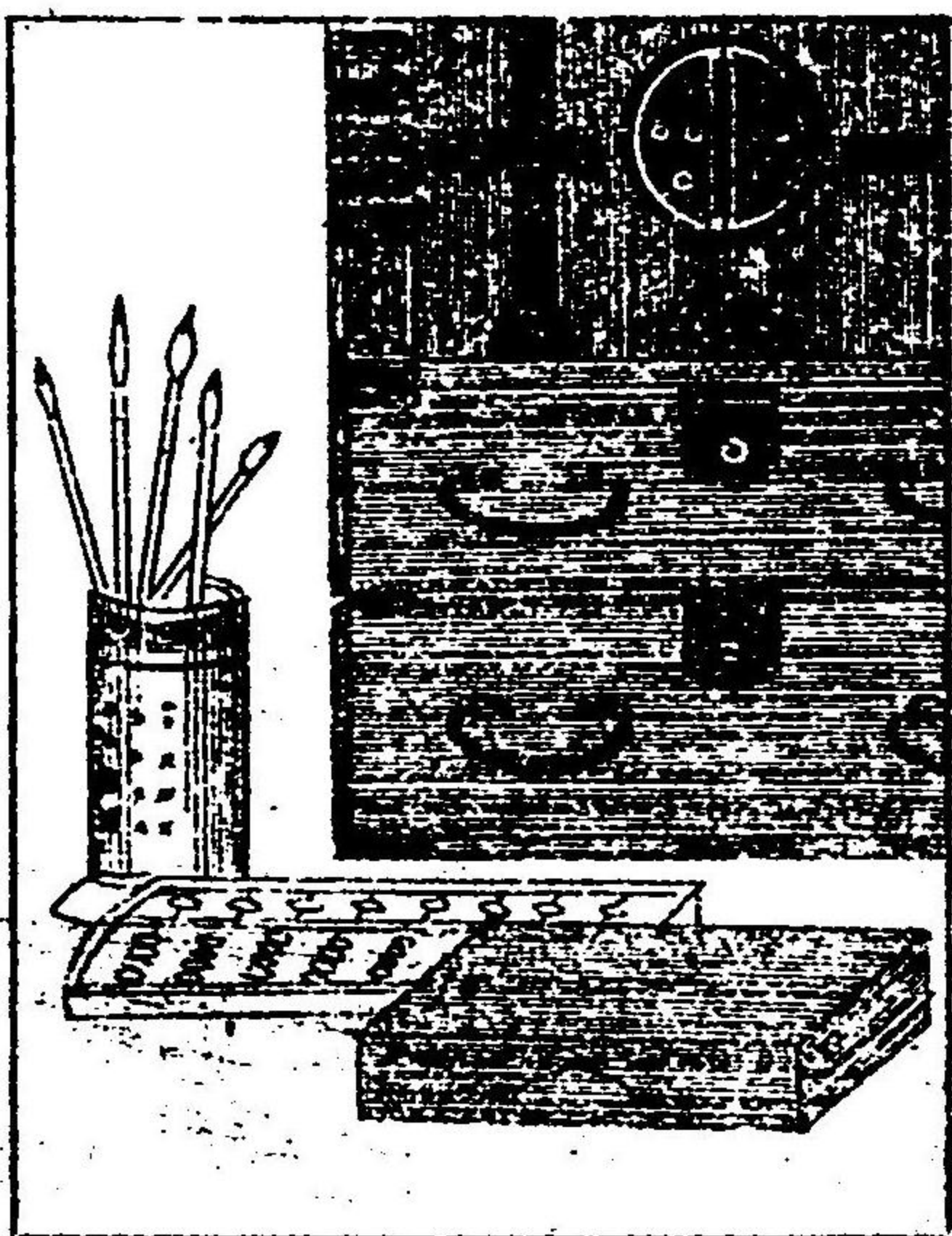
幼稚チヨチのトキハ、先マツ日用ヨウジヨウキの各名ナ

と記シして、其ソノ用モチめ方カタを、知シるベい

○筆フデハ字ジを寫ウツし、又マタ畫クハを寫ウツし具グ

也ナリ ○算盤ソバンハ、物モノを數カガふる用ヨウハ、洪キヨウ

に、○文庫ブンコハ、書籍シヨクセキを納イるハコ箱ハコに



り ○篋ケツ笥スハ、衣裳イサウかどカドを入イるハコ器ウツバなり、

又マタ平生ヘイゼイ食シヨクむベきもの各名ナを記シし、これヲを調テウ理リして、食シヨク物モノとカシコク

も法ハウを、知シるベい ○食シヨク物モノとカシコクふカシコクまカシコクべカシコクきもの各種シユ々ツあり、

第一ダイハ、穀物コクモノなり ○穀物コクモノとカシコクハ、稻イネ麥ムギ豆マメ粟アハヒ黍ヒエの類ルイをいハふ ○

此等コレラハ、皆ミナ田島タジマハ、作ツクりて、其ソノ實ミを取トり、或アハハ炊カシき、或アハハ炙アハり

て、食シヨク物モノとカシコクまカシコクるナリ

第二ダイハ、肉類ニクルイあり、○肉類ニクルイとカシコクハ、魚イサ鳥トリ獸シユ

肉ニクの類ルイをいハふ、○此等コレラハ、或アハハ炙アハり、或アハ

ハ煮ニて、食シヨク物モノとカシコクまカシコクるナリ

第三ダイハ、菓クハふり、○菓クハハ、葡ブ萄ドウ梨ナシ梅ウメ桃モモ柿カキ



橙蜜柑の類をいふ○此等ハ多く生ゐて食し、又鹽漬けて、食物とまゐるもあり

第四ハ菜蔬の類なり○此等ハ畠に植ゑ作るものと野

生自生するものもあり○多くハ煮て食し、また鹽漬と

するもあり○凡て菜ハ葉と根とを食物とに、又實を食物と

するもあり○此の如く、平生用ゐる食物什

器をバ能く心を留めて忘るゝことあるを

人の業ハ、種々ありて其學ぶべきとこ

ろ、各異なり然ども先書を讀み、字を寫

し、物を數ふることを學ぶを第一の務



とにこれに普通の學といふ○この學を為さざれば、何

其の業をも習ふこと能はば

故に人ハ、六七歳に至れば皆小學校に入りて、普通の學

に従ふべし○小學校ハ士農工商とも必學ぶべきの業

を授くる所なり

學校に入りてハ何事も一心に師の教に順ひ勉強して

學ぶべし

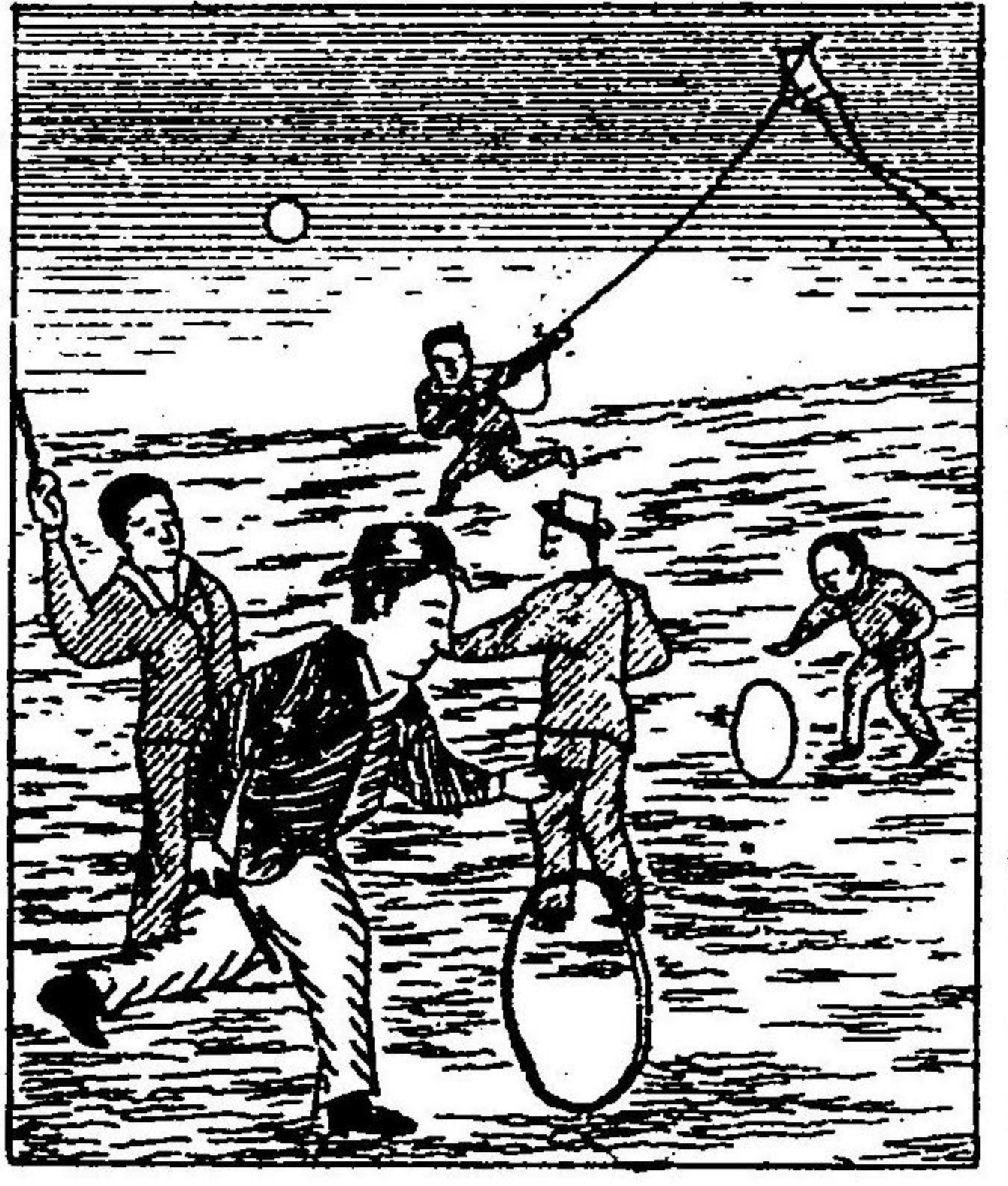
何事を學ぶよも勉強を第一とせ、勉強せざれば、學問は上達

する事能はず

一事よても、記し得る所ハ能く心を用ゐて忘るべからず

初より多く記せんとせよ。却て忘るるものなり。故は怠
 なく、日毎に一事を記し得て、忘れざるときは其記し得
 ころ所の事、自歳と共に積もりて、多きに至るべし。
 他人の、一とび讀む所ハ、百たびもこれを讀み、他人の、十
 たび習ふ所ハ、千たびもこれを習ふべし。○斯の如く勉強
 して怠りなければ、必多く事を記し得らるべきなり。○
 愚かるものも、多く事を記し得るときは、無用の人たる
 ことを免るべし。學校へハ、授業の暇は、遊歩の時間あり。
 ○此時間ハ、遊歩場へ出て、身を動かし心を慰むべし。○怠
 なく勉強したる後は、遊歩も楽しむものなり。

故は遊歩を樂とせんとおもはせよ。
 授業の時間ハ、怠なく勉強せよ。
 遊歩場へ出て、男兒の戯るる枝
 ハ種々あり、せども決して危き遊歩
 ハなにべからず。○輪を廻し、紙
 鳶を飛む、球を投ぐる等を宜しとす。○朋友相集りて



遊ぶときは、自擅小して、他人の樂
 を妨ぐべからず。
 女子の遊ハ、男兒と異りて、走り旋
 るあどの戯をハ、かまべからず。○

朋支を伴なひて遊ぶ時ハ心を和らげて何事も親しく
まべい

第二

我等ハ河の中よて遊ぶんとす
岸の邊ハ水浅きゆゑ水よ入
りて遊ぶことを得べし
河の正中ハ深きゆゑ遊
ぶべし若し深きところ
ろよ沈むるときハ復出づること
能ハざるべし○かんぢの衣



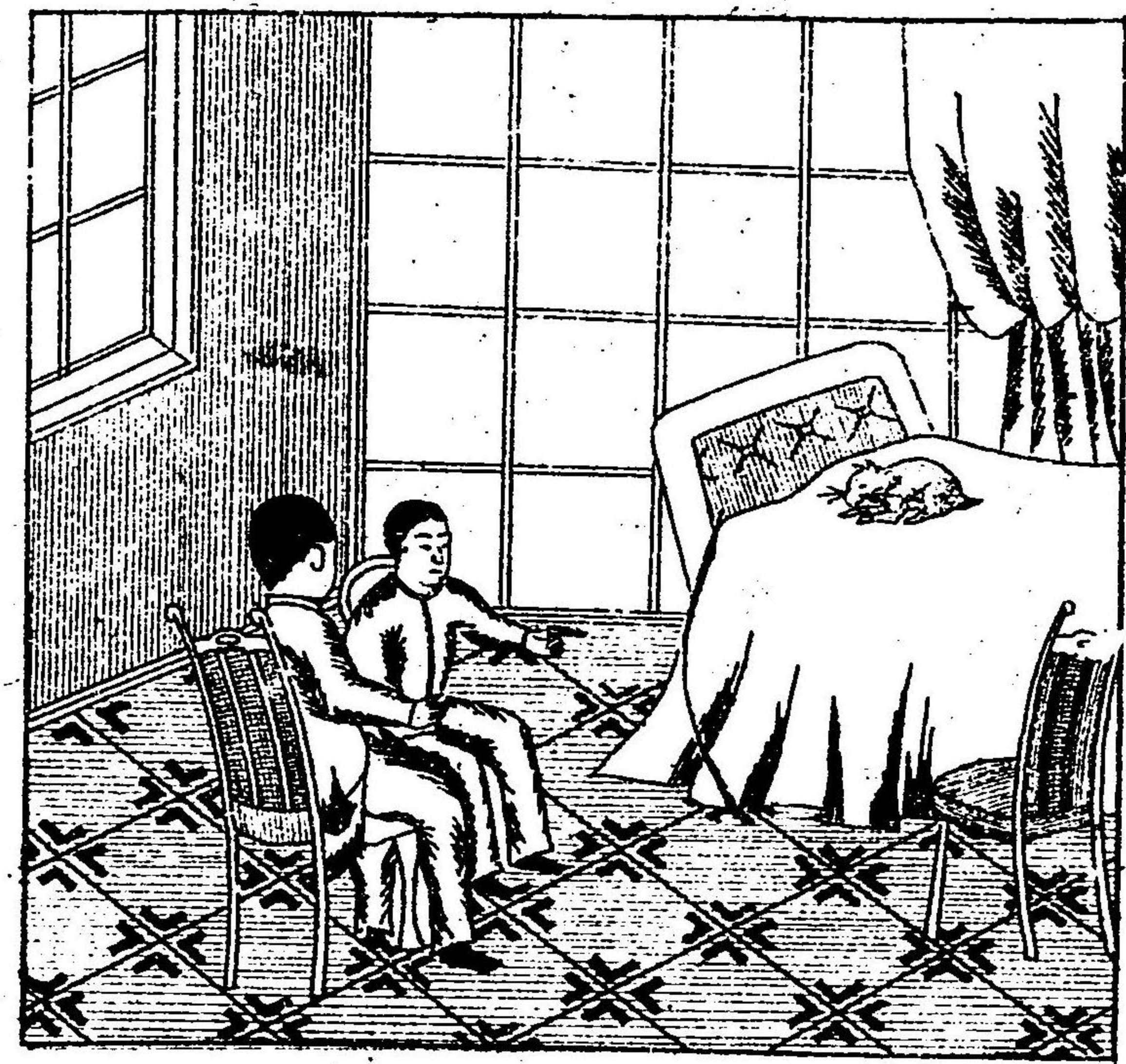
裳ハ濕ひたきバ陸上りて此を乾きへし○汝ハこ
の小舟よ乗らんとする○小舟ハ覆へり易き故漫よ
乗るべからばも一過つ時ハ水よ陥りて其命を失ふこ



とあるへし、
此兒ハ新しき紙鳶を持てり○彼ガ糸
を持ちて走るを見よ○彼ハ紙鳶を鷹
く飛ばせんと思ふふり○汝も紙鳶の
賜るを欲する○紙鳶の賜りたるや
きハ能く心を用るよ○糸の樹纏ふこ

とあるへし

彼ハ新アタラき帽ボウを持モてり○其ソノ舊フルき帽ボウハ破ヤまゝゝるゆゑ小
 新アタラしく買ガイ得エゝるふり○新アタラき
 帽ボウをハ心ココロを用モチゐて或アルハ毀ヤり
 或アルハ濡スすへからば○凡スベて
 新アタラき時トキより大タイ切キ小コ持モチて
 後ノチまでも破チまカ難ガタし故ユ小コ何ナニ
 物モノ小コても鹿ツ末マツまカべからず
 若モシ心ココロを用モチゐギて毀コつこと
 ありば、その罪ツミを免マヌかカるべし
 べ



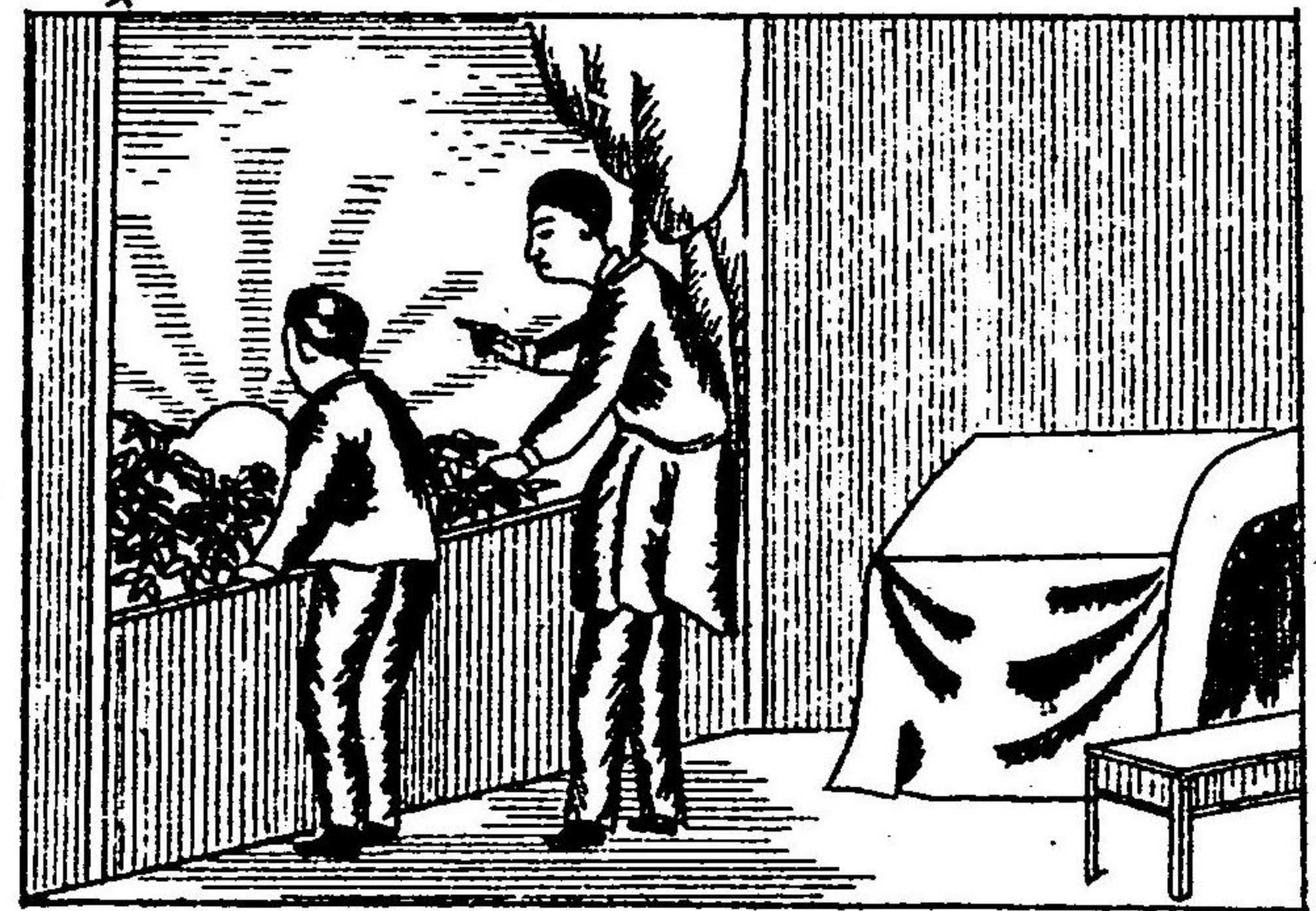
此猫チコを見ミよ恣ホシに卧グ床レの上ウ坐マせりこれよチコ猫チコもあ
 の鼠ネズミを捕トるを見ミたりや○見ミたり夜ヨ間ナカも鼠ネズミと捕トふる事コト屢シバシバ也

○汝ナニハ猫チコを追ヲひ退ノくる
 ことを得ウべしや○否イナ手を
 出イさば必カナラ猫チコ小コ嚙カまるべし
 ○猫チコハ他タ所シヨ小コ追ヲ遣ヤるべき
 う又コト此コ所ト小コ留トめ置ヲべき
 ○猫チコハ此レ室シツの中ウチ小コ留トめ置ヲ
 と雖イヘ卧レ床レの上ウまカ上リる事コトとバ
 許ユルまべありば○汝ナニハ此チコ猫チコ

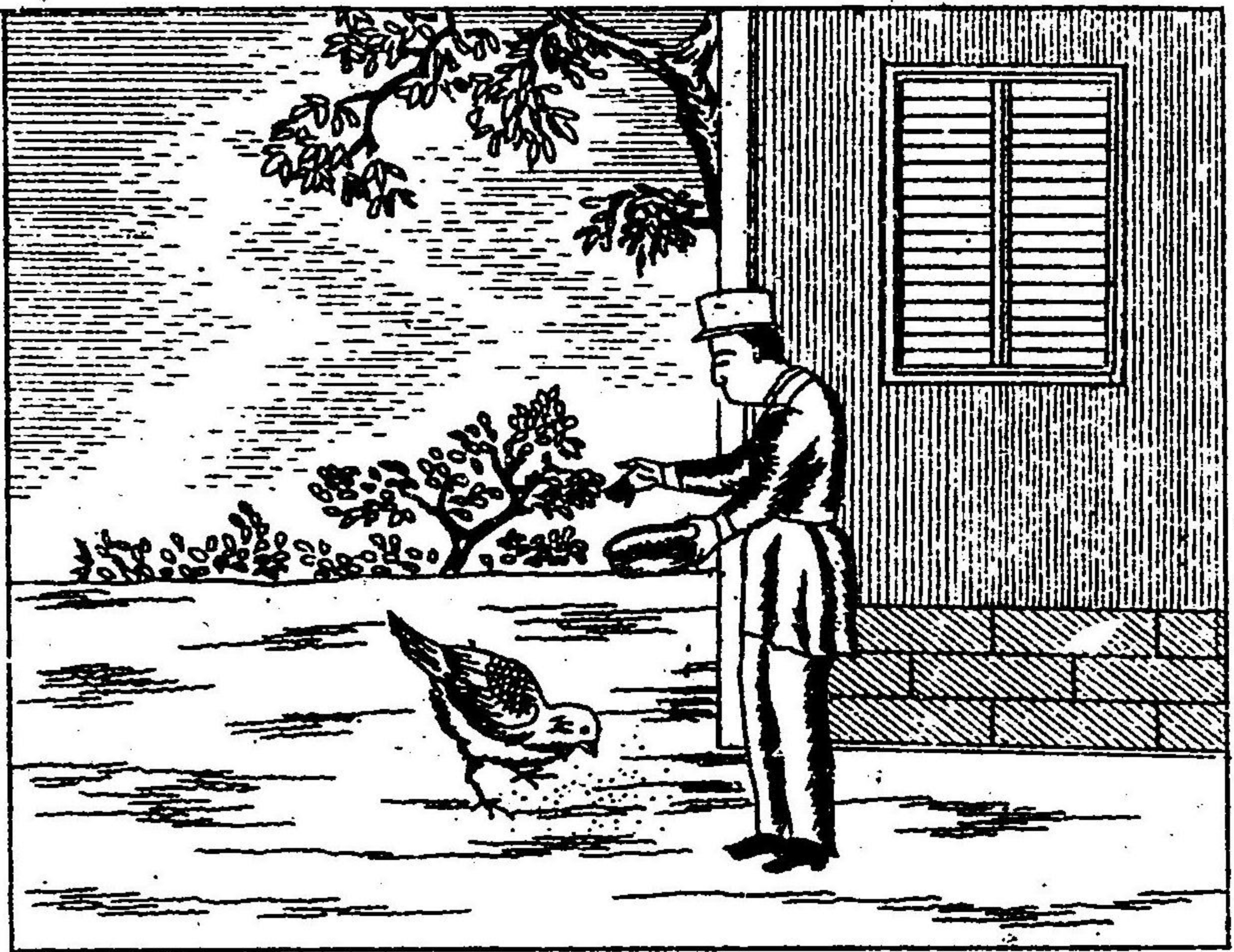
汝ハ小舟に乗る人を見たりや彼ハ何如して其舟
 を行るや○彼ハ權を以て小舟を漕げり
 群兇相集り球を投げて遊び居
 まり○彼等の棒を持てるハ投
 げざる球を受留る以て樂とま
 るなり若其球を受留ること能
 ハざる者ハ負とせざるあり○
 此球ハ柔よして緊きもの小
 らざるゆゑ人小中りても傷く
 ことあり○此ハ善き遊ぶれども熱き日は早くこれ



を止めよ酷き熱さに觸るゝと
 ハ身を害ふ以てなり
 大陽の昇りたるときハ我等の起き
 出つべき時の来
 きるなりと思ふ
 ベー○大陽の昇
 たる後までも猶
 寝所は臥すことふかき○我等ハ大
 陽をハ見ることを得きども其出つ
 るを見ることなり○汝ハ大陽の赤

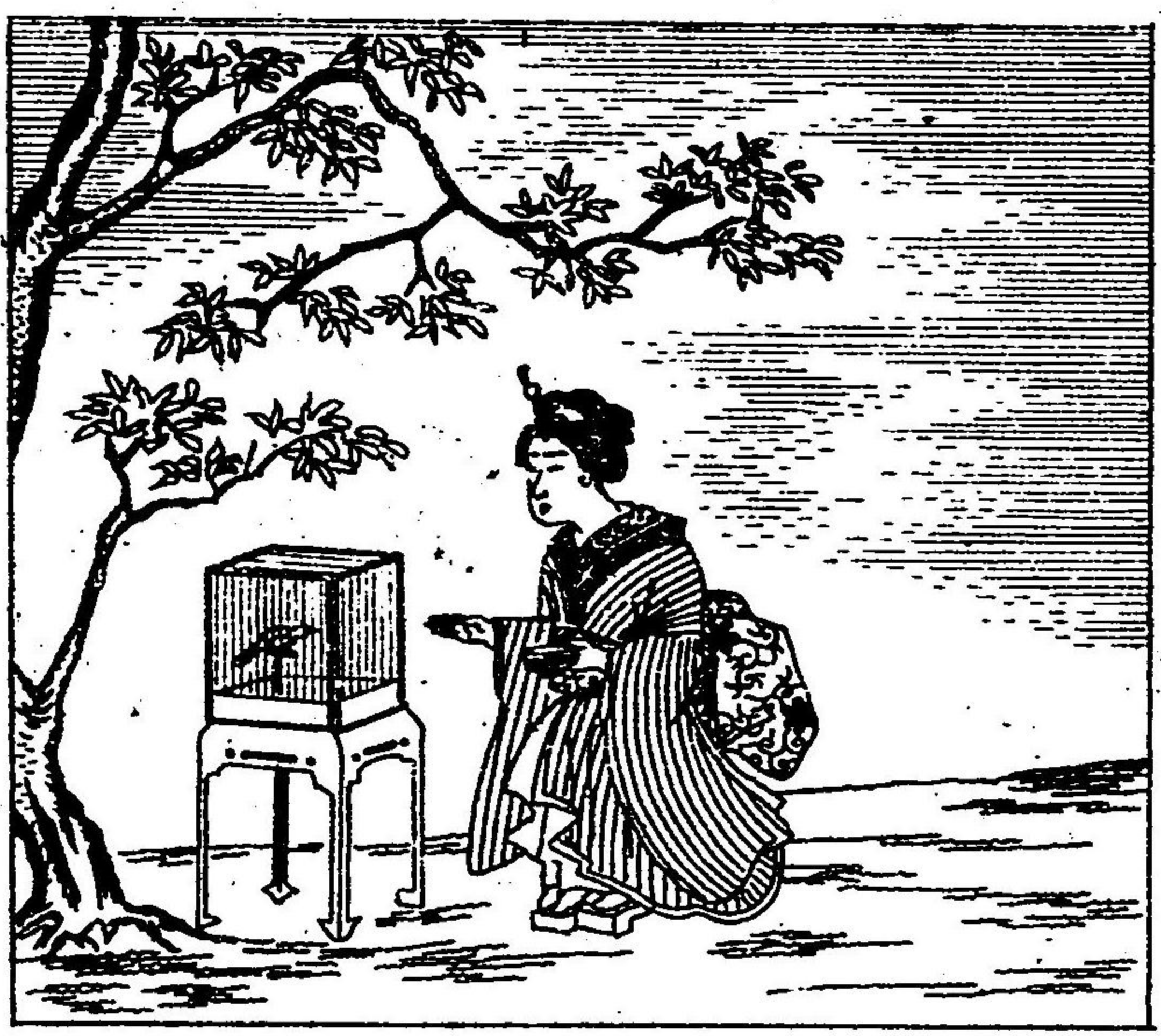


を見たる事有大陽赤時大抵早成者也
 これハ林檎の樹なり○汝を此樹
 の蕾を見りや○此樹ハ紅
 蕾満てり○此蕾をハ取るべから
 ば○暫過くれば其蕾皆開き美
 き花となるのみならず後ハ實
 を結びて其味甘き果となればな
 り
 彼兎ハ牝雞を養ひへり○雞ハ穀物
 を食する事速也○これ嗜むこと
 多し



あり然も其穀物をハ腹
 下下ださぎて唯喉の
 下なる袋ハ入せ置き夜間ハ
 再吐き出さして始めてこれ
 を腸中ハ嗜み下づばもの
 なり

波女ハ鳥ヲ捕ヘテ籠ニ入キ置ケリ○此鳥ヲ馴セリ
ヤ又時トシテハ噪キ暴ルキ事ナシ○此鳥今ハ



馴レトモ初メよく暴ル
たり○汝ハ鳥ノ聲ヲ聞クこ
トヲ好ム又好まざる○
吾ハ鳥ノ聲ヲ聞クことヲ好
むのみならず又其形ヲ見る
ことヲ好メリ○此鳥ハ籠ヨ
リ出づることヲ願ヘる○
若シ籠ヨリ出づるとも再

歸リ來ルベキ又其まに飛ヒ去ル○凡テ鳥ハ自
由ニ山林ノ遊ブことヲ好ム故ニ籠ヨリ出づることヲ
願ヒ一度出づキハ再歸リ來ることナシ

我モ惡キ小兎ヲ好まざるゆ
ゑ此レヲ遠ダケんとす○惡
キ小兎マテモ吾ハ此レヲ打
傷くることナシ然レ共
遊ブことヲ好まざるあり
彼子ハ彼小女ノ為ニ親切
ふることハ小女ノ躑躅倒
まざる為ニ手ヲ執リ導ク



然レ彼子ノ親切
ふ



とふきを知りてこれを任せたるゆゑに親切に導きて
 家よ在ると同じく安全ふりむるふり○若し又家よ歸
 らんとするときは自在に歸り得るべし

ても知るべし○彼二人は道
 よ迷ふべき事○否彼子ハ能
 く道を知るゆゑに二人と
 も道よ迷ふことあり○彼等
 ハ林の中を過ることを恐る
 るか○否恐るることあり○
 小女の母ハ彼子の恐るるこ

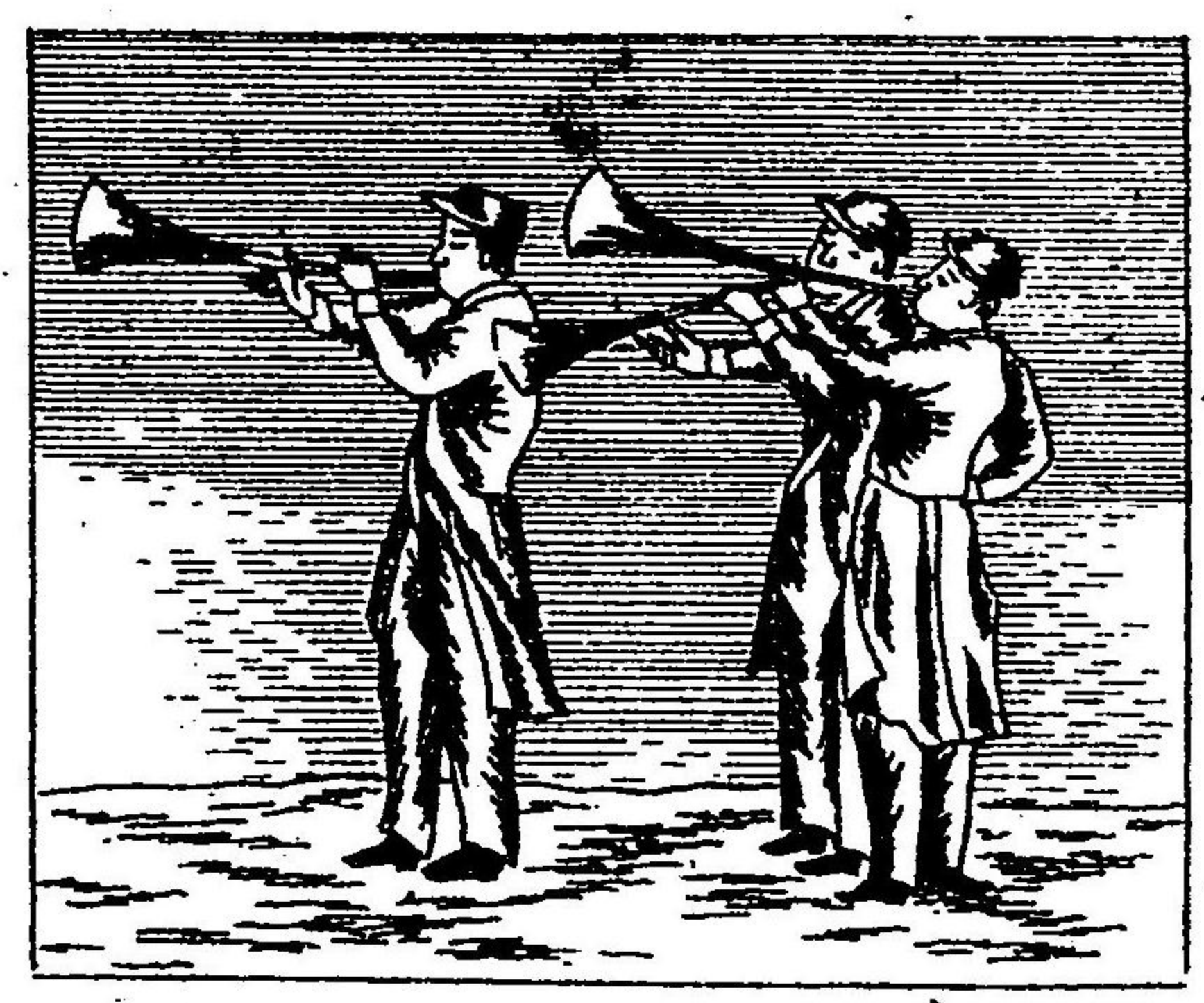
汝ハ杖を携へたる老人を見たる
 ○彼老人ハ路碓の石の上よ息ひ其
 手を杖の上よ置けり○彼の顔と其
 白髪なるよ由りて年老たるを知り
 又年老たるよ由りて體の屈けたる
 を知り○何よ由りて彼ハ杖を携
 ふるや○老人ハ杖の為よ歩行キ杖
 なくハ歩行キ難
 し○彼ハ年老よも起つことと歩
 行キることハ得
 べし然れども急よ走ること能ハ
 ば時々途上よ休きて
 息を續ぎ杖よ頼りて徐よ歩行
 するなり





爰に五人あり。○汝ハ此人の、年老た
るを、知まじりや。○此人ハ、白き鬚あまきバ
老人あるべし。○此人等ハ、手は杖を
持ちたる老人と同じく、年老たり。○
然まじも、其身ハ
猶壯健ふるゆゑ
は、杖に頼らざり

て自在に歩行するを得る
なり
彼等の持ちたる笛の名を、何といふぞ。○此ハ



喇叭なり。○波等ハ、樂隊の兵卒ゆるゑ、此笛を吹くこと
を、段鍊するなり。○此笛ハ、兵隊の行列を整ふる合圖に
用ゐる。又ハ、祝日の音楽に用ゐるものなり。○此笛ハ、管長
くして、先きの開きたるものゆゑ、聲
を發するに、最大なり。
汝ハ、此人の服紗の中にあるものを
書冊なりと思ふ。○否、これハ、巻物
あり。○然らば、書冊の次第を數ふる
とき、何故に巻、二巻三巻と云ふや。○この唱
ハ、衛は轉れるあり。古ハ、只巻物とい



て、書冊シヨサツふらぎるゆるる巻マキ一卷二と呼ヨひたりと其後ソノノチ
今の書冊シヨサツ出来りても猶昔オホカシの唱ナマは浴シタがべるあり
良ヨき老人ラウジンハ我ワハ好コは随シいて、問トふ所トコロを教オシへ又能ヨく小兒セウニ
を愛アイするう、○然シカり彼カレハ小兒セウニの
善ヨきものを愛アイすれども惡アシき
小兒セウニをバ決ケツして愛アイすることな
し善ヨき小兒セウニふまハ好コして何事ナニゴト
をも教オシふるあり、
汝ニハ此女子コノメを見ミるる、○何故ナニユエ
は其手ソノテを、上アげてをるや○彼女カノメ



子シハ籠カゴは鳥トリを入イぎ置ヲき、これど
も心ココロを用モトふこと深フカからざる故ユエ
は鳥トリを養ヤシい得エば彼籠カノカゴを持モツと即スナチ
其鳥ソノトリ逃ニげ去サりて直スマ材イザシの中ナカは
飛トび入イりたるあり、○此コノとき驚オドロ
きて手テを擧アぐとも、再捕マタヒトラふるこ
と能アタハさきバ何ナニの用ヨも立タつ
べのくば、○彼の鳥トリを逃ニがしたるを吾ワレハ却カッて甚喜シタヨロシべり
鳥トリハ自由ジユウなることを好コむものなればあり
汝ニハ鳥トリの性セイを知シりや、○鳥トリハ木キは在アることを好コして、



子シハ籠カゴは鳥トリを入イぎ置ヲき、これど
も心ココロを用モトふこと深フカからざる故ユエ
は鳥トリを養ヤシい得エば彼籠カノカゴを持モツと即スナチ
其鳥ソノトリ逃ニげ去サりて直スマ材イザシの中ナカは
飛トび入イりたるあり、○此コノとき驚オドロ
きて手テを擧アぐとも、再捕マタヒトラふるこ
と能アタハさきバ何ナニの用ヨも立タつ
べのくば、○彼の鳥トリを逃ニがしたるを吾ワレハ却カッて甚喜シタヨロシべり
鳥トリハ自由ジユウなることを好コむものなればあり
汝ニハ鳥トリの性セイを知シりや、○鳥トリハ木キは在アることを好コして、



第四

此女子ハ、愛まべき人形を持てり。此等ハ遊ぶに宜しき具



巢を造り兒を養育す。○鷓鴣ハ小鳥
よて棘の間よ巢を營み、鷓鴣ハ水鳥
よて水の邊よ巢を造るふり。○か
鳥ハ頭よ毛冠あり。○まべて諸鳥の
林間又ハ水上よ遊ぶハ天然の性
レバこれヲ捕へ
て苦むるハ善き
ことよあらば

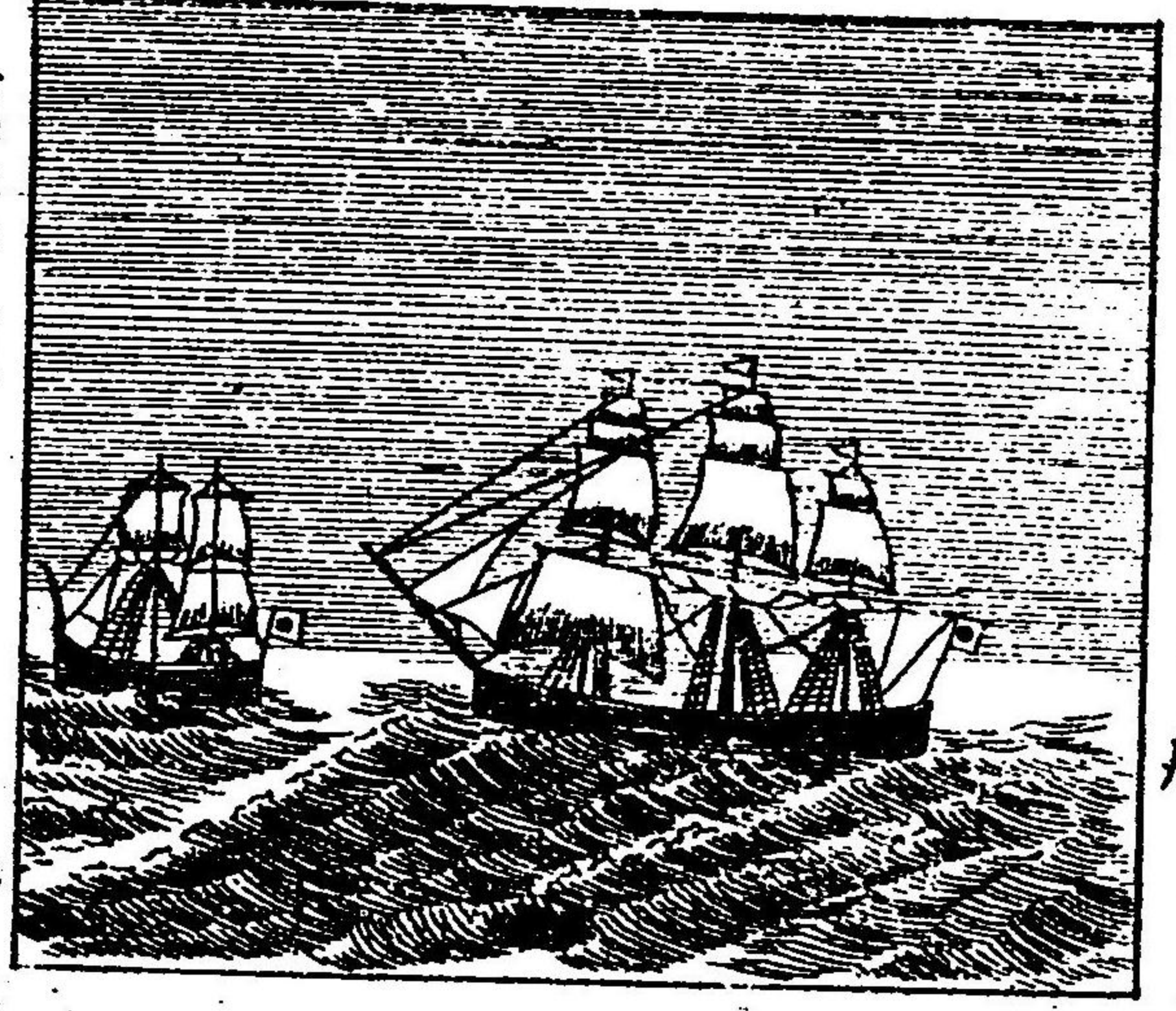
あり必大切よ弄ぶへ。○人形を舞はしきハ、静よ動
くして毀るべか。○だ
母ハ小兒よ向ひて、何もの人形を求めんとするやと問
ふよ、小兒ハ自好む所を指し示せるなり。○此小兒ハ人
形のみを弄びて倦めるときは、何事をなはや、毬を
弄ふことを好むあるべし。○此店
よ、列ねたる品ハ、皆小兒の好むも
のおもども、此小兒ハ静なる娘ゆ
ゑよ、人形を愛して、能く心を用ゐ
これヲ損ひ毀ることふし、



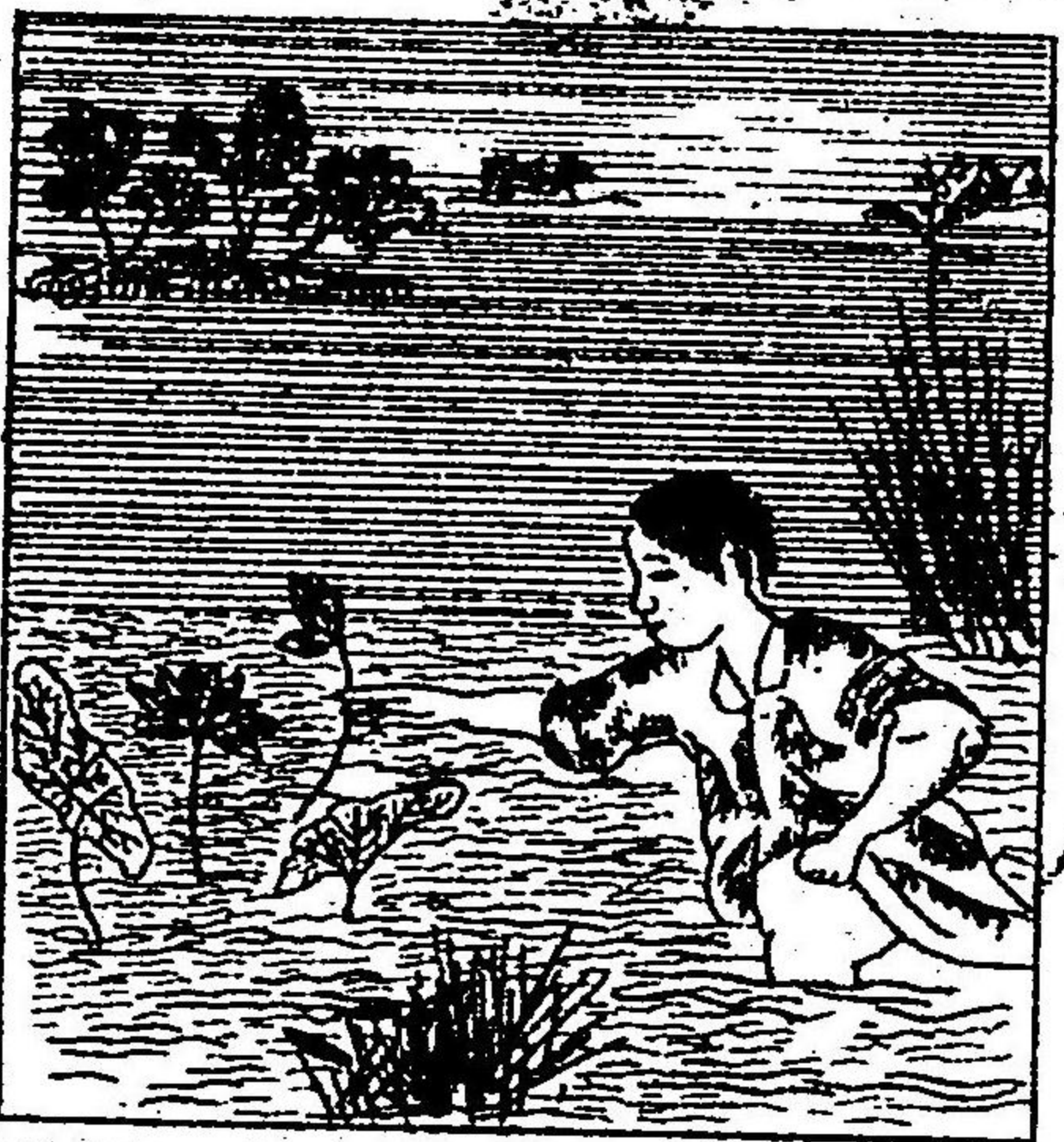
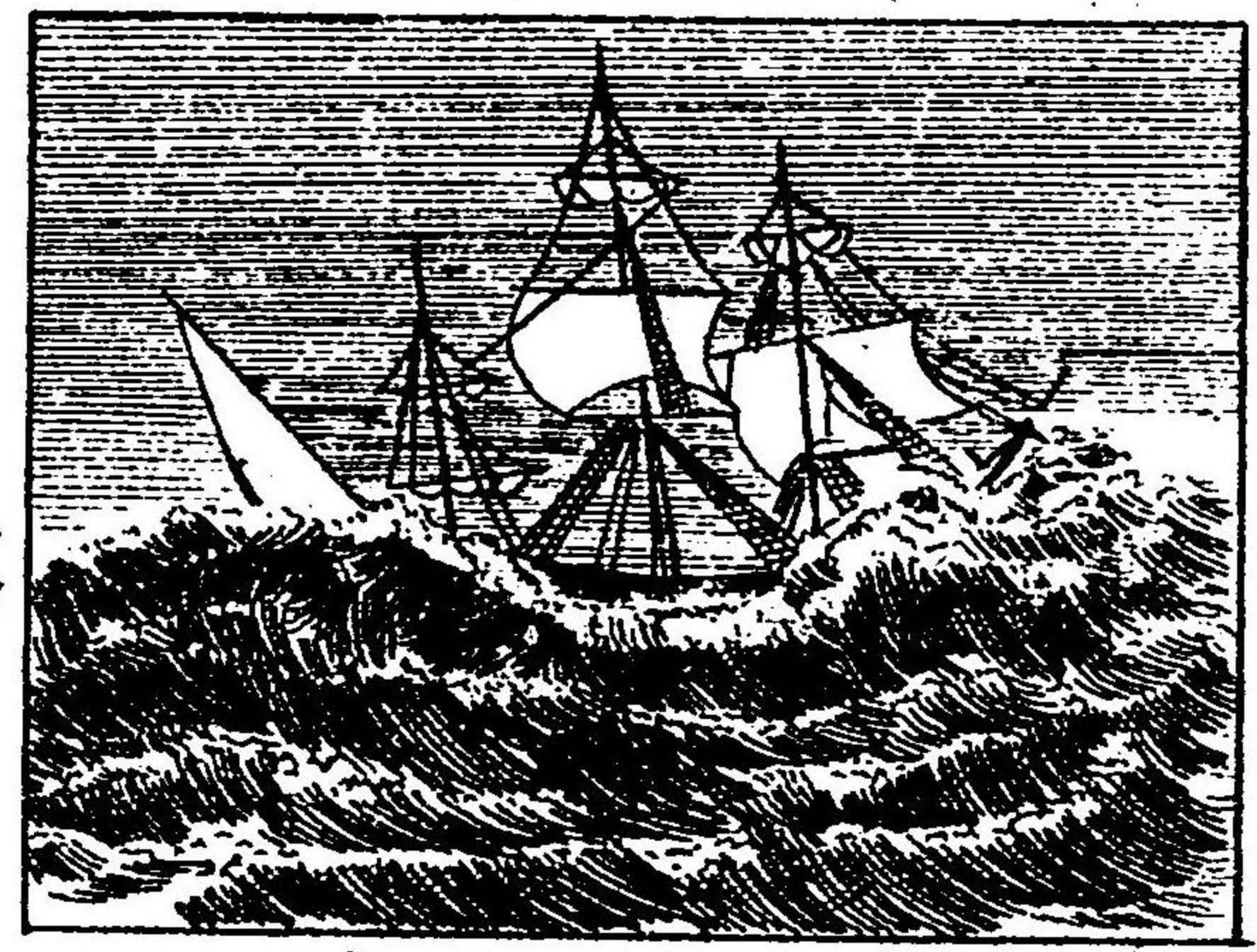
鼻ハ終日、密樹の枝ををり、夜に入まば始めて飛び翔る
 たり、○此鳥ハ、眼力甚強き者な、晝間
 ハ、却て物を見ることが能はず、暗夜は明
 なること、人の能く日中、物を見ることが
 馬に乗る人あり、○汝ハ馬に乗る
 ことを好む、○我ハ馬に乗ることを
 好む、然れども、波の如く疾く走ること
 と、好まば、徐歩する事と、好めり、○
 此馬ハ何故に疾く走るや、○馬ハ彼は、
 鞭うたるゆえに、其痛堪へずして疾く走るなり



爰は小船と大船あり、小船は二本の櫓あり、大船は
 三本の櫓あり、汝ハ櫓の用を知そ
 りや、○櫓ハ、凡て帆を揚ぐる為
 設けたるあり、○汝ハ、海を渡るよ
 小船に乗ることを好む、○風吹
 きて浪の立つ時も我ハ、船に乗
 て、海を渡ることを好まば、其覆
 んことを畏る、ゆゑなり、○これハ、蒸氣船
 蒸氣船より、ちがひ、帆前船なり、
 爰は暴風の日、海上は浮びこる船あり、櫓も折れ、帆も破



まて、甚危き状あり、○此船ハ、帆前船なるべし、もし蒸氣
 船なれば、斯る難は罹ること少ぶや、○否、商船
 らん、○これハ軍艦ありや、○否、商船
 なり、船の腹小、炮門ふきを見て知るべし、
 此小兒ハ幼年あるゆゑ、水の深き所
 に入ること能はば、○此小兒も何を
 なさんとせむるや、○これハ蓮の小さ
 葉と大なる葉とを採らんとせむるなり、○もし岸より遠
 く離れて行くときハ、水も漸深くふるゆゑ、歸ること
 能はざるべし、



一人の男ハ帽を被りて左の手は杖
 を持てり、○此人ハ、此家の主人にて
 今他所へ出でて行かんとせむる状
 あり、帽を手も持ちたる人ハ上着を
 著せりて肘を見ハせり、これハこの

家の僕よりして事をなはし便ある
 がゆゑあり、○僕ハ、今主人の出で
 行きて後にも終日空しく暮れこ
 とを欲せにいて、其為をべき事を
 問ふところなり、



人ありて、草を積み上げたり、此草の乾きこるを枯草と云ふ、○枯草ハ、車に載せて、これを馬に引かせ、直に小屋



に運び入る、○草ハ枯れて、乾くを待ち、速に小屋に運び入るべし、雨に遇ふ時ハ、再濡るものふれなり、○此枯草ハ牛馬の食となしべし、○馬ハ枯草と麥とを食せれども、其最好むとのハ、麥なり、

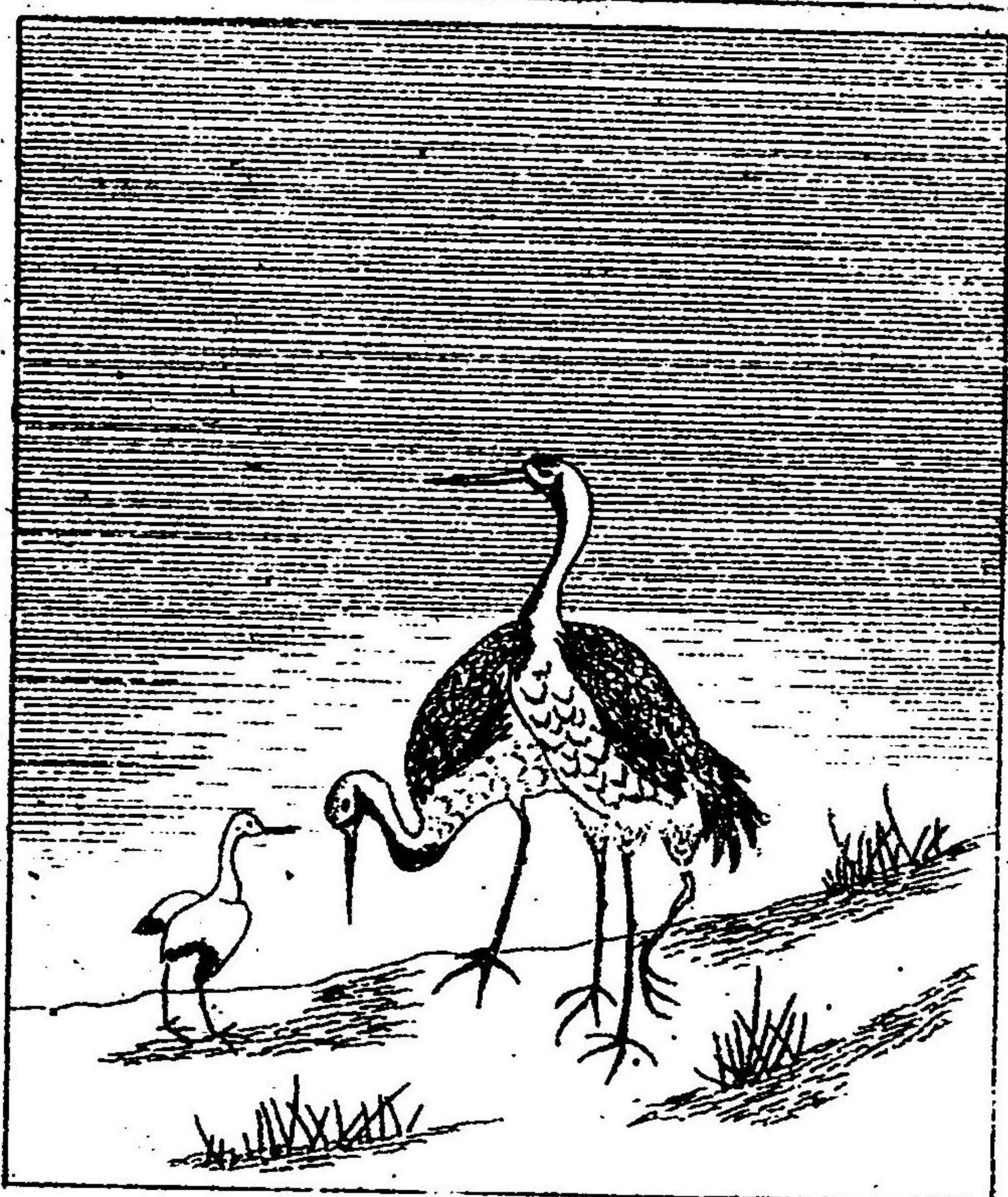
人ハ耳、目、口、鼻あり、○鼻ハ、香を嗅ぎ、耳ハ、聲を聞き、口ハ食を味ひ、又思ふことを言ひ、目ハ、物を見るものなり、○鼻と口とハ、只一つよりて、目と耳とハ、二つあり、○耳と



目とハ、二つありて、口ハ、一つあり、見聞く如く、言語を多くせむべからば、○又人ハ、二つの手と、二つの足とあれども、口ハ、只一つあり、話を、少くして、業を、多くせむべし、

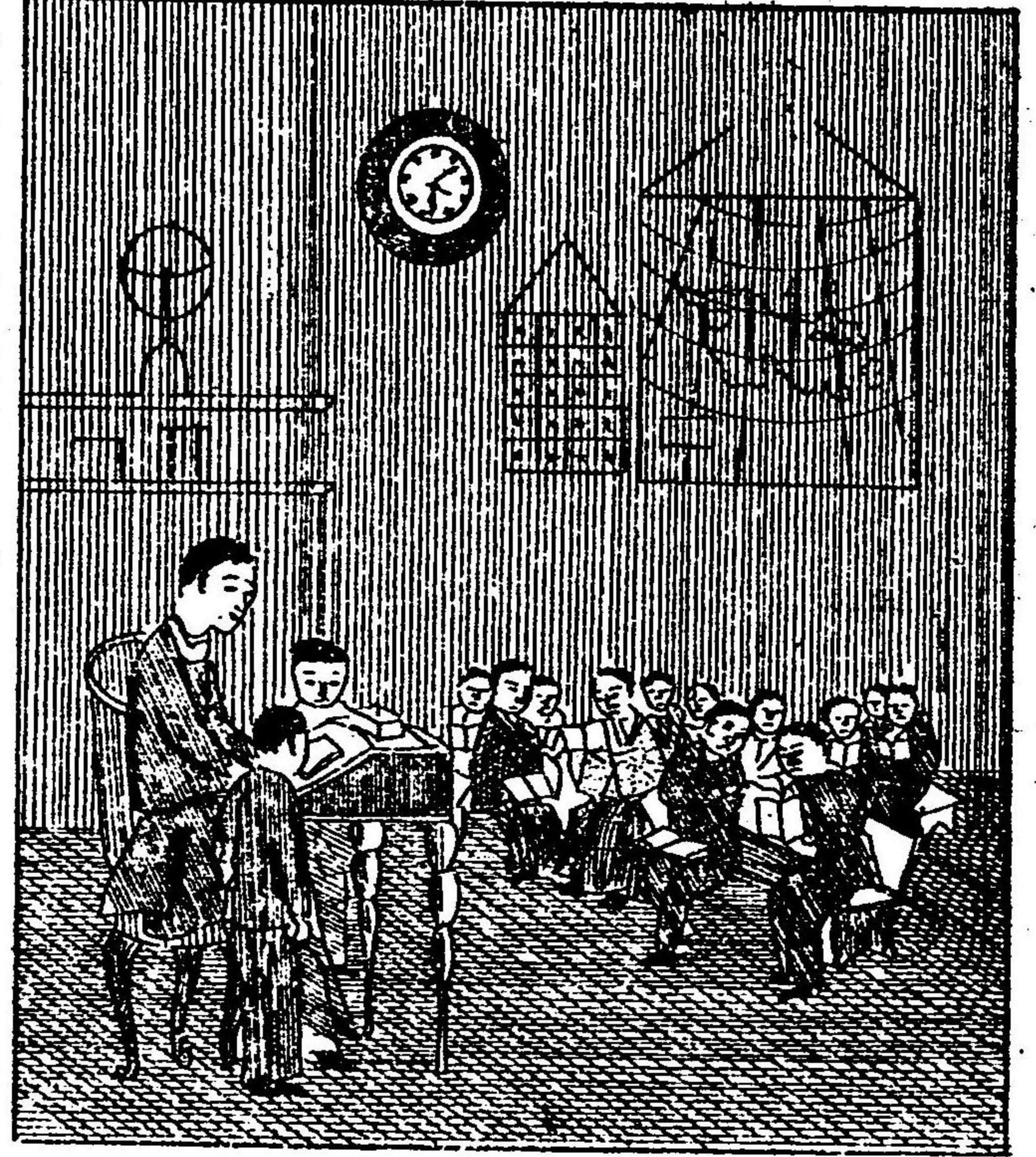
第五

鶴ハ、大なる鳥トリにして雛の間ハ、其羽毛モウ茶色チヤイロなれども生セイ長ナガく後ノチハ、雪ユキの如ゴトく白シロくなるなり、○この鳥ハ長ナガき頸ネ



よて、長ナガき脛ハキあり、○此鳥コノトリの卵タマゴハ、大オホきにして白シロきものあり、○此類コノルイの鳥トリを涉ワタ水ミヅ鳥トリといへり、淺水アサキを涉ワタりて魚イサ蟲ムシを食シヨクとふせども水スイ上シヤウまハ浮ウカぶことあく夜ヨハ樹上ジュウジヤウに眠ネムるゆゑなり、

學校ガクカウハ、教師ケウシ入り来キタまり、數多アヤマタの男オトコ兒シラと小女子セウジョシとあり、○此小兒等セウニラハ、皆書ミナショを讀ヨクみ、字ジを習ナラへり、○校中カウチュウハ、右盤ウキハンと机ツクエと書籍ショクシヤクとあり、○汝ナシチハ、學校ガクカウハ、行くこととを好コトむ、○汝ナシチハ書ショを讀ヨクみ、又語ゴを綴ツヅることとを能ヨクくも、や○吾ワレハ、書ショを讀ヨクむこととを、好コトめども、未イマタ能ヨクく讀ヨクむこととを得エず、今日ケフハ寒サムき日ヒふり、雪ユキハ、一様イチヤウニ、地上チノウチに積ツクもまり、○小兒セウニ



十七



ハ、氷の上を滑べることとを好む。○此遊ハ甚危きものゆ
 ゑ、能く心を用ゐねば
 何るべからず。○も、顛
 び倒るることあらば、身
 を傷ふべし。○賢き小兒
 を、かゝる危き遊を好む
 ことなく、只遊歩傷ま
 於て遊ぶのみ、
 此兒ハ、手を伸べて卵を取らんとに、○巢の中は、數多
 の卵あり。○こゝハ、鶏の卵あり。○鶏ハ、巢の傍に在りて

飛び去らばこそハ、卵を取らざ
 こととを憂ふるゆゑなり。○鶏の
 卵は、小ふるものと、大ふるもの
 とあるハ、其種類の、異なるゆゑ
 なり

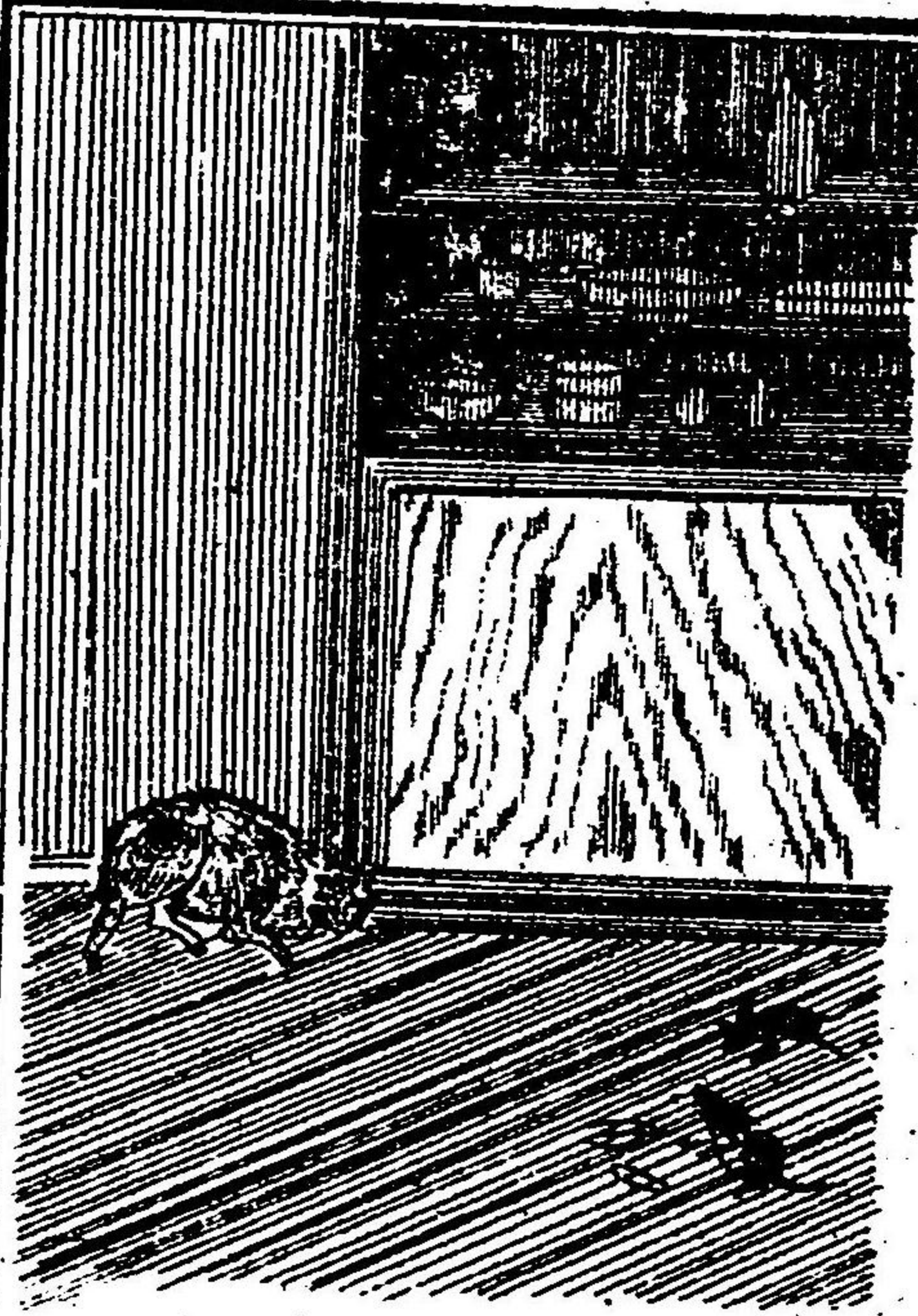


瞿麥と、桔梗との花あり。○小兒ハ、桔梗の花を採り、娘ハ
 瞿麥の花を、手は持てり。○瞿麥の花を、多く紅色なり。○



桔梗の花ハ、紺色なり。瞿麥
 ハ、多種ふまども、概夏は花
 を開くありし。

數多の鼠あり、鼠ハ日中よ出づることふり、○夜半よ至りて各出でて遊べり、○此出でて遊ぶときハ梁を行き棚よ登り、厨よ入りて食類を竊み食に、○然もども猫の聲を聞くときも驚きて一時



静まり、忽穴の中へ逃げ入るなり、○故は猫の居る處よハ、出でて遊ぶことなり、爰は馬車有りて、數多の小兒と女子とを載せたり、○汝も此小兒と女子とを知らりや、これを知らり、○これハ皆我學校よ来る人なり、○彼の犬ハ馬と同く走まり、○彼等ハ汝を見たりや、○彼ハ吾を見るとき小必其帽を脱く故は我も亦其時よハ帽を脱がぶることなり、この箱の中よ響あり、○汝ハ此響を何なりと思ふや、○此箱の中よある



ハ鼠ネズミからぞハ猫ネコなるべし汝ナニハ、何ナニなりと思オモふや○この響ヒキ甚シ小コあるゆゑは吾ワレハ鼠ネズミなりと思オモへり、○凡ソレて響ヒキハ、其ソノ物モノは應オホじて度ドは過スぎざるものなれバ、猫ネコもあらずば大オホなる鼠ネズミもあらずばと思オモへり、爰コゝは四シ人の小兒セウニあり、二人ニを坐ザして二人ニハ立タてり、○一人ヒトの老ラウ人ジンありて此コノ小兒セウニ等ヲ神カミの語コトバを脱トき聞キきさんとす、○老ラウ人ジン云イふ凡ソレて人ヒトを神カミを敬ケイして、わが身ミの幸サイを願ネガふむとならずバ善ヨきみち



を行ヲふべし、○善ヨき心ココロを持モちて善ヨき道ミチを行ヲふんことを敬ホツせハ小兒セウニの時トキより學問ガクモンを勤ソツむべし、○學問ガクモンして壯年サウネンに至イり毫スコシも過アヤなきときハ自神ラウカラムニの助タスケを得ウべし、



爰コゝは杖ツエを携タシへたる老ラウ人ジンあり、足アシも不自由フジユまで、目メも矇クラくなれり然シカまども此老コノラウ人ジンも初ハジメハ小兒セウニまで、今イマの汝等ナニの如コトく疾トく走ハシりまじ遊アソび戯ウラれトなり、○今イマハ足アシも頭アツもるゝゆゑは小兒セウニの肩カダを倚ヨ

りて、立てり。○見よ、此老人は、此丸を一年は、譬ふまば、冬の時候の至まるなり。○汝等も、冬の時候は至らざる前、學問を勤めて世間の利益を考へ出さば、春の萬物を生長まらう如くせむいあるべからば、

爰は、槐の大木あり。○汝も此木の年を経る數を知らんことを欲せ、横ぶら。○此木の年を経る數を知らんことを欲せ、横ぶら。○此木の年を経る數を知らんことを欲せ、横ぶら。○此木の年を経る數を知らんことを欲せ、横ぶら。

ま切りて、木理の輪を數へ見るべし。木理の輪ハ、年毎一、一つの外ハ生ぜざるものなれば、輪の數よて、其經る年の數を



知らるゝなり。○木理の輪ハ、大概木の心より増すものなれども、希は外面より増すものもあり。



汝等毎朝早く起きて神を拜し、先今朝まで無難は過ぎぬるも、神の賜ありかく夜明くる毎は日光を給ふ小よりて、父母の恙なき顔を見ることを得るも、皆其恩ふりと謝まべし。○さて其後、吾を導きて、

第六

て幸を與へ必過無うらゑめんことを祈るべし。

此人等ハ小舟ヲ乗リ網を以て魚を捕り海濱ニ歸るなり。○網を海上ニ引きて魚を捕ふるときハ鱗も鱗なきも、大なるも小なるも、同じく其中ニ入らざるものなり。○汝ハ此處ニ居る、三人の男を見とりや。○又彼等の捕へたる数多の魚を見ビヤ。○海中の魚ハ其種類多くして、大なるものと小なるものと良きものと良からぬものとあり。○一人の男も小なりて良からざる魚をバ取りて海中へ投げ入きとり。○一人ハ大なる

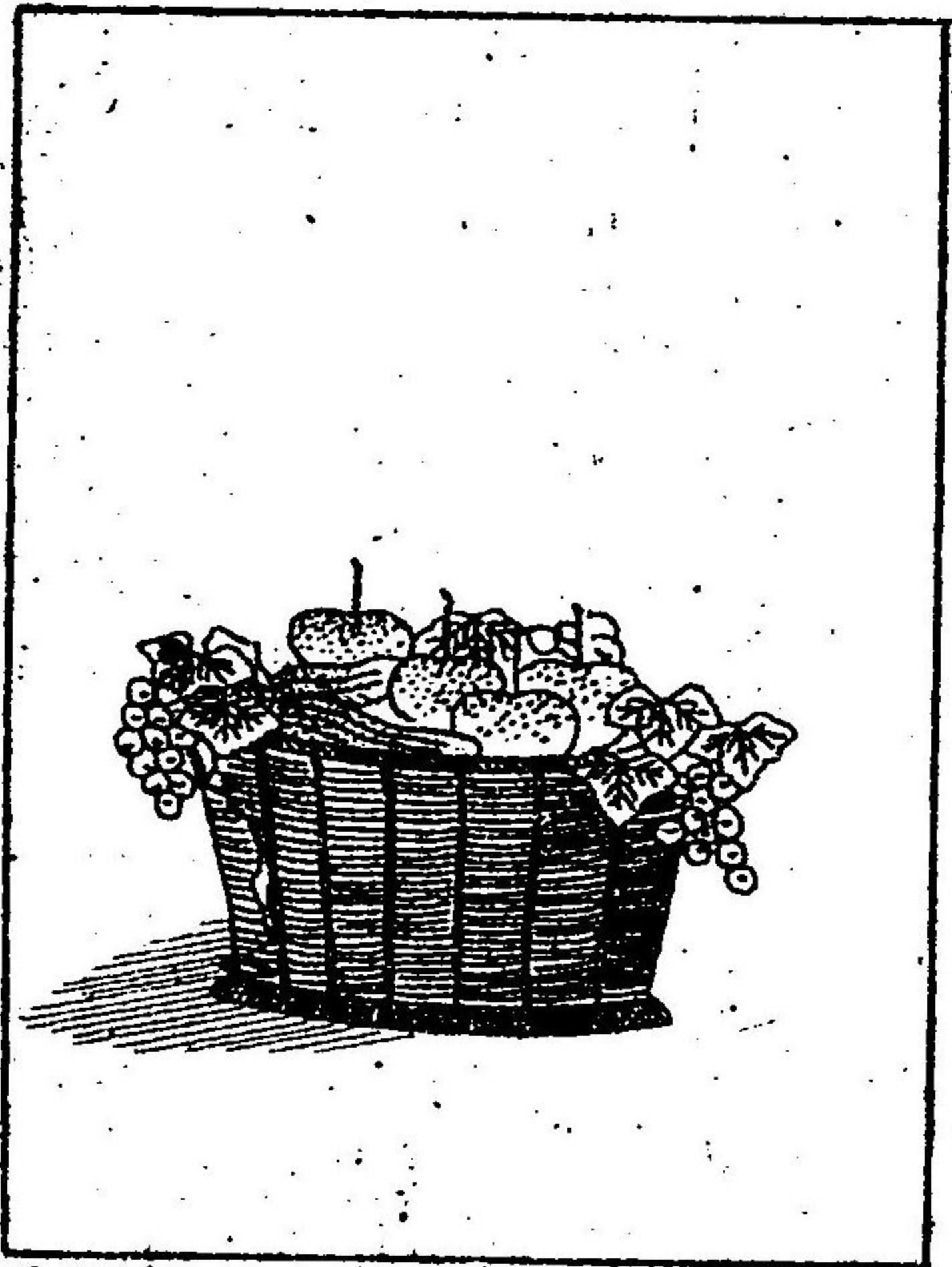


魚を籠ニ入る。○所ふり。○入きたる魚の、此籠小満ちたるときハ我が家ニ持ち歸るあり。



此地を何知ある處と思ふぞ。○花園あり。○此處小數多の美しき花あり。○左の手ニ鍬を持ち右の手ニ小帽を持ち、さる小兒あり小兒の後ニ杖を持ち、さる娘あり。○汝ハ此園を、此小兒と娘との為小設け、さる所なりと思ふ。○又この小兒等を喜びて遊ぶと思ふ。○一

人の娘ハ瓜を入る籠を持てり○汝ハ花園小遊ぶ
 とき漫子花を折り又果を取るべし
 爰子果を摘み入る籠あり○この果ハ葡萄と梨子
 あり○籠の外子掛りあるハ葡萄の蔓あり○其影ハ籠
 の左子在り然もハ大陽ハ何
 ぎノ方小ありといふことを
 知れりや○大陽ハ籠の右よ
 りるべし
 此畫ハ日の出の景色なり○
 今日ハ晴きる、天氣ある、啼く鳥ハ木より木よ



木ノ飛ひ遷る○草ハ青々として葉ノ露を帯りり○敷
 多の農夫を野に出で、或ハ
 畝を耕し、或ハ草を芟り、○
 農夫ハ晴きる日ハ必野
 に出でて働くものと知るへ
 しも、晴天ハ働うされハ、霖
 雨ノ遇ふとき耕すことを得
 ば、て穀菜を得ることなし
 今日ハ日中なりたり○大陽
 の照らに處ハ甚熱し然もど

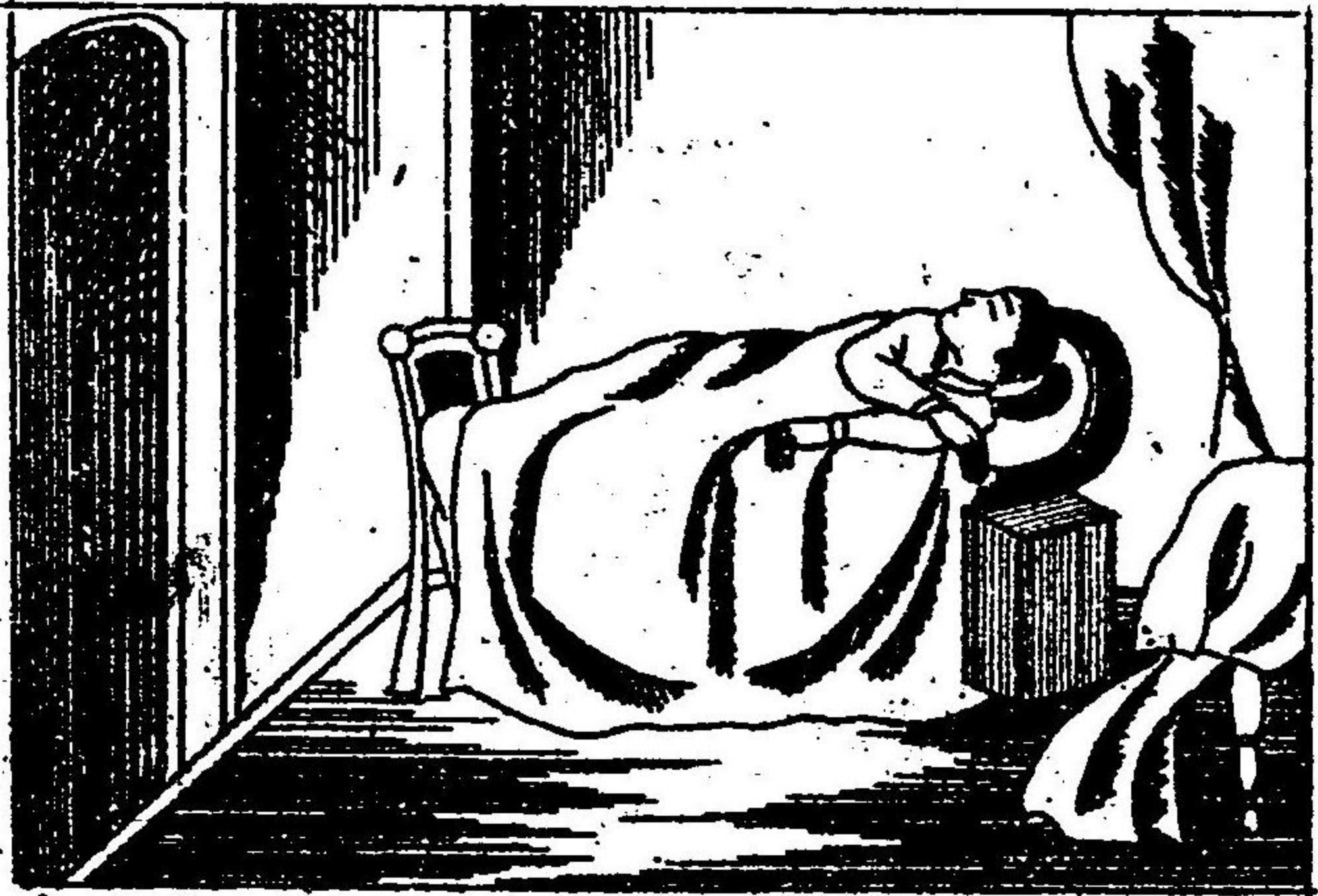
も樹の蔭ハ較涼シきゆるゑは臥したる牛と立ちゝる牛
 あり○又一匹の牛ハ熱さを
 消せんう為は河へ行きて水
 を飲まんとす○河の上は橋
 あり○人を日中よりありゝる
 ゆる皆書飯を食する為は家
 へ歸れり
 日暮となりたり○人の野よ
 り歸り来り牛を庭よりあり○
 一人の女の庭より出でて牛の乳を懸り桶に満ちめて



ゝるときよも神の守りあるゆるゑは暗き所も恐るゝこ

これを牛酪は製せんとは○
 此時男子ハ晝間英りたる草
 を積み又テ一置ける穀を収
 めんが為は極め不忙し今日
 も一務を果さゝるときを明
 日の業は妨はるがゆるゑあり
 神ハ常は我を守るゆるゑは吾
 を獨りて暗夜は歩行するを
 も恐るゝことなり○又眠り

とあり、○神ハ暗き所も、明く見るものゆゑ人の知らざる所と思ひて假ほも悪しきことをなせハ忽罰を蒙るあり、○人の知らざることをも神を能く知るゆゑ善きものよハ幸を與へ悪しきものよハ過を與ふるなり



を得たりと思ふや ○十六の林檎ぶり ○然り汝等を物を數

第七

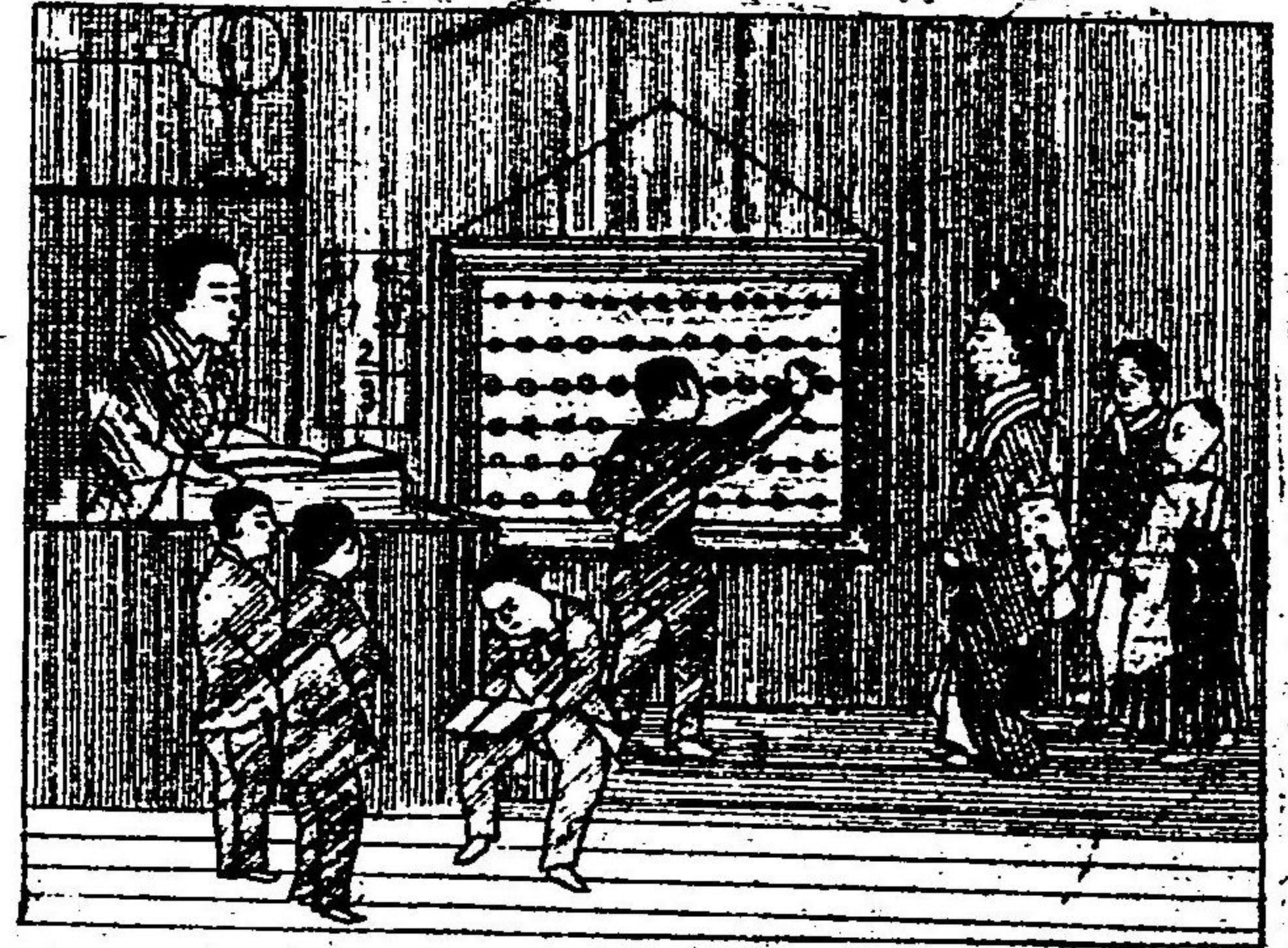
汝ハ物を數へ得るゝ ○父も一汝一十一の林檎を與へて、母もまゝ五の林檎を與へるときを幾箇の林檎

ふることを學ぶべし ○大なる數と小き數とを、知るべし ○汝を石盤又ハ紙に數字を書得るゝ ○もし數字を書き得ざらば、務めてこれを書くことを學ぶべし ○物の數を、知らざる

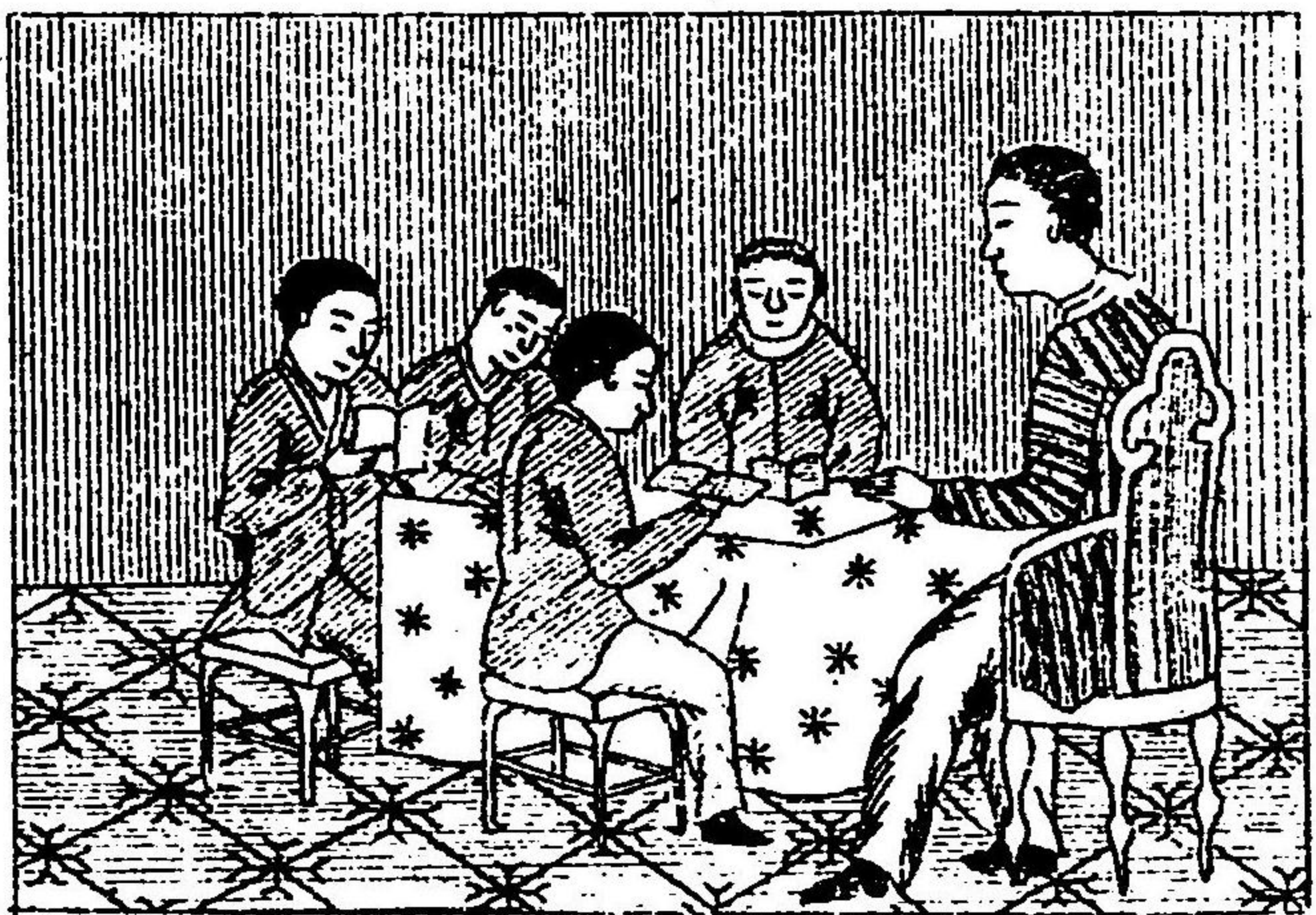


を愚人なり

盆の上は十一の梨ありこの中母ハ三持ち去まり然らば残りたる梨子ハ幾箇とふまりや、○残りたるハハふり



汝等ハ文字を書き得るか、○文字を書き得ざるにき、ハ書状を人より贈ること能はず、○このゆゑに汝等ハ文字



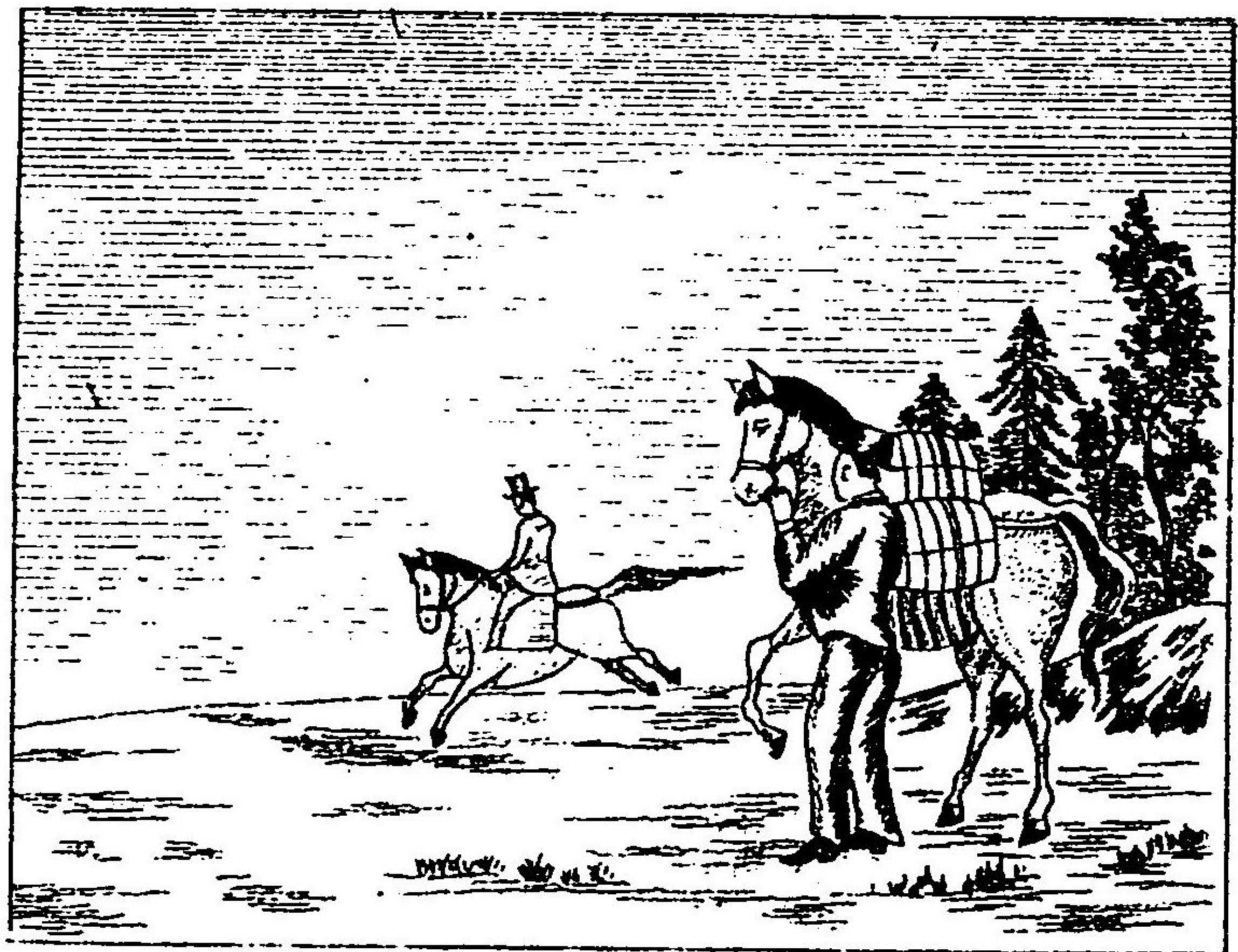
字を書くことを学ばへし、

汝等ハ文字を讀み得る、○文字を讀むことを知らざれば人より贈らる書籍を讀み得ざるにき、ハ事を知らざる人の縦

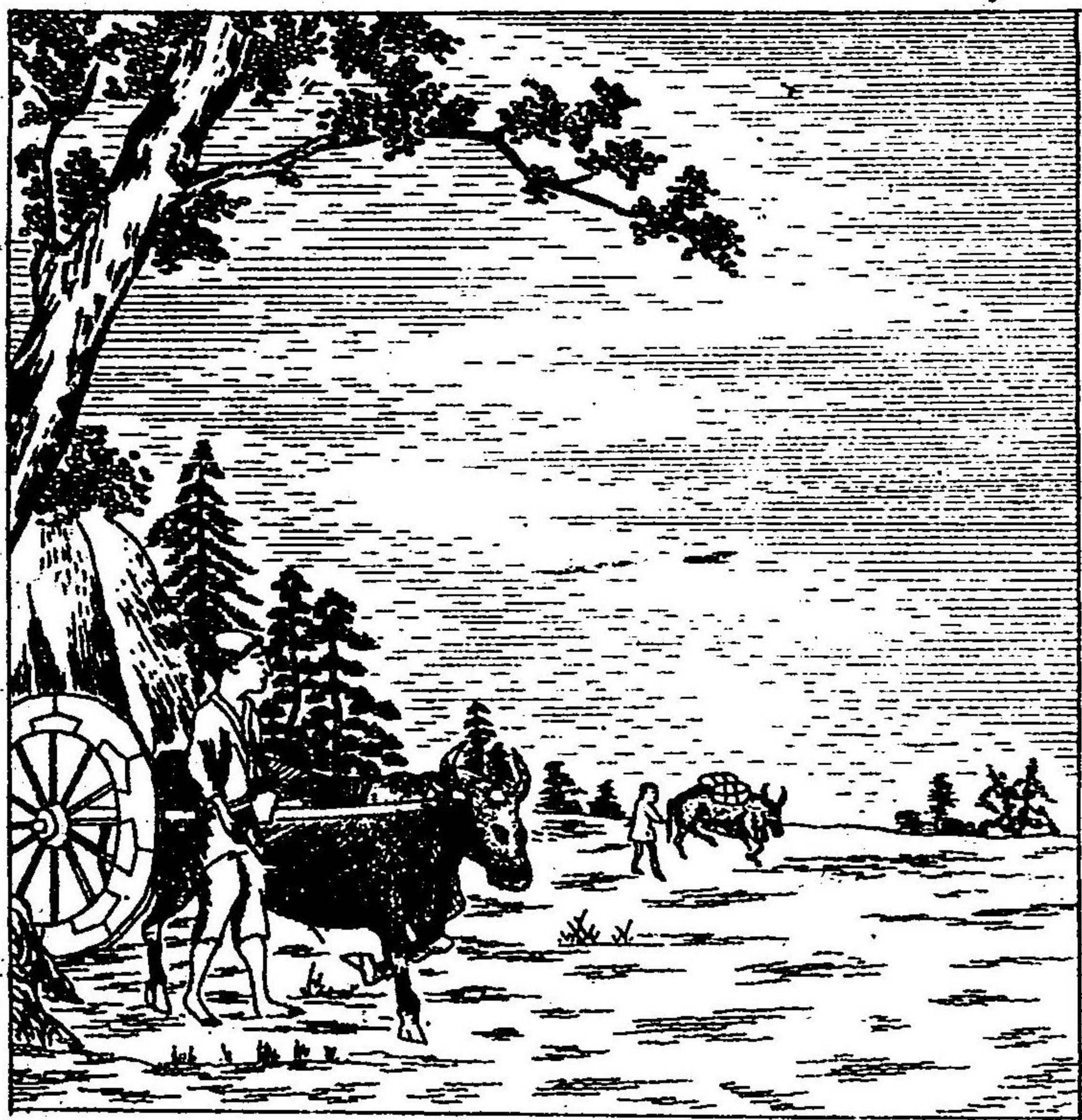


才ありと雖用よハ適せざるあり、○ゆゑに文字を讀むことを知らざる者を同しく、愚人といふなり、○されバ汝等ハ務めて文字を讀むことを学ばへし、

馬ハ實用に適すべき畜類なり、陸地に於て、荷物を運ぶに無くてハ不便なり、○馬ハ畜類の大なるものにて、頗長く驚けり、○昔の上り荷を負ひて、速き輪るも、り、人と載せて速く走る



もろり又車を引くもろりなり
 牛も馬と同く、實用は使ふる畜類よりして、能く車を引き
 き、又ハ荷を負ひて速きは輸るものあり、○されども牛ハ人を乗せて走ること
 能はず、○牛の肉ハ食物と
 ありて能く滋養をなす又
 牝牛よりハ乳汁を齎り取
 ることを得るなり
 汝の着る衣服ハ何と



いふ織物ありや、○上衣ハ糸織
 よして羽織ハ黒羅紗なり、○汝
 ハ絹と木綿と羅紗の中は、何き
 う尤暖なるものと思ふや、○羅
 紗ハ毛織ふきハ第一は暖なり
 其次を木綿と絹も又其次なふ
 爰は白き單衣と紺色の單衣は
 り、○汝ハ阿きを暖なりと思ふ
 や、○白き色ハ太陽の熱を引くこと、少きゆゑ、夏ハ涼
 しと雖冬ハ寒し、○紺色ハ太陽の熱通ひ易きゆゑ、冬



ハ暖なりと雖夏ハ暑シ○人々夏
ハ多く白衣を着冬を多く紺色の
衣裳を着るハこの理よりなり
爰は二枚の圖あり皆人の働く状



○初り
の圖ハ田下だりて秧を
植るところなり○この人
ハ時も露をせりこれ



働くは使なるりもゑなり
次の圖ハ稻を刈りて我家に持ち歸る所なり○又稻を



想ひ粒々皆辛若より出でるを知りて其業を怠る

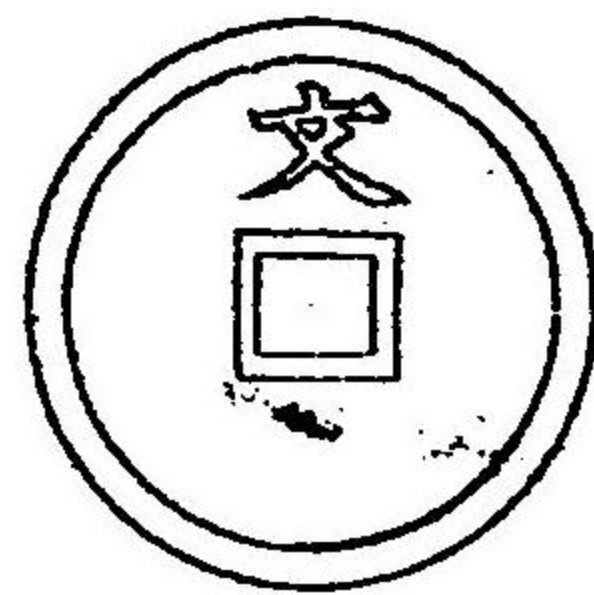
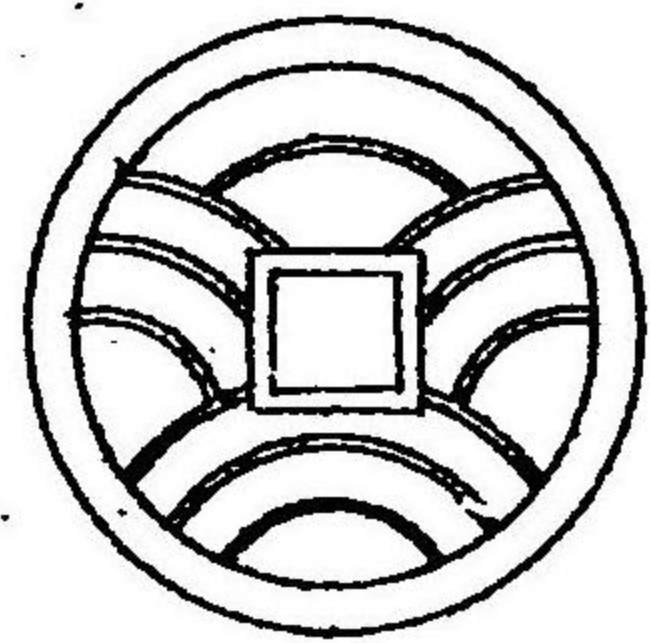
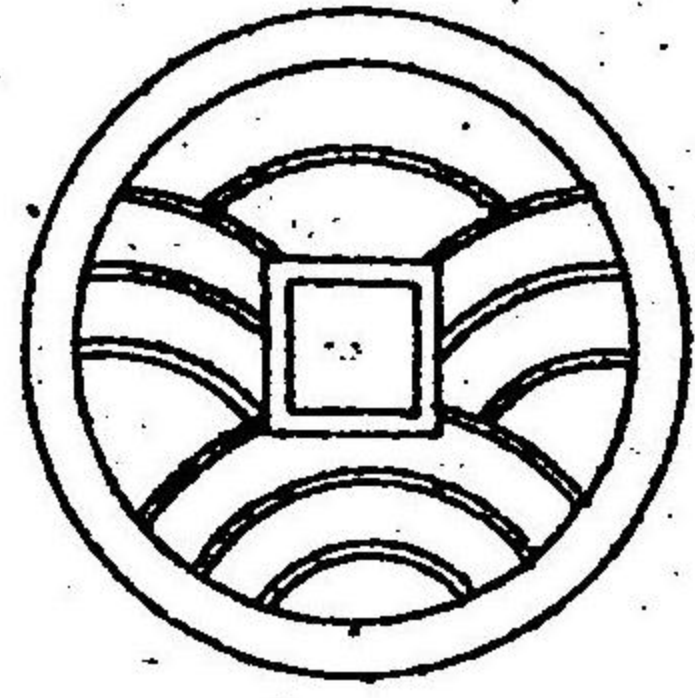
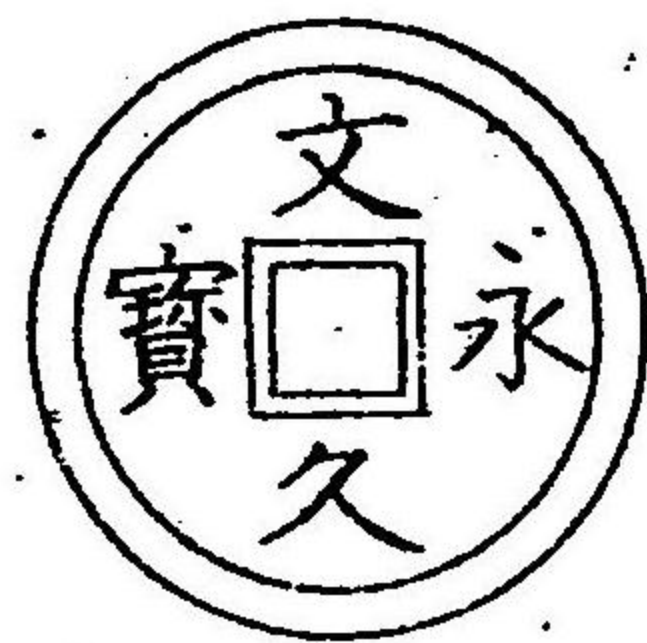
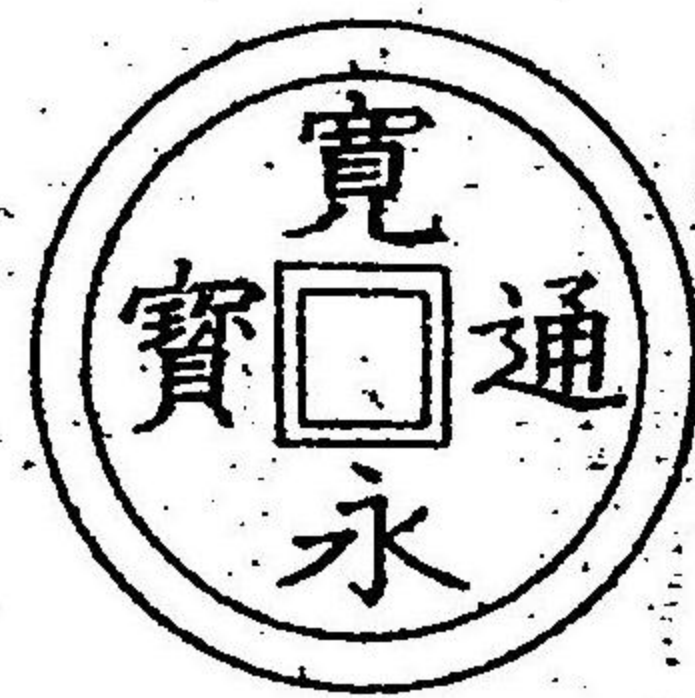
持きて米を取る所を見
るべし○此人々の衣ハ
汗は濡ひて乾くときあ
し○農夫を此の如く働
うざれハ穀物を得るこ
となり○汝等穀物を食
むる毎は農夫の苦勞を

べからば

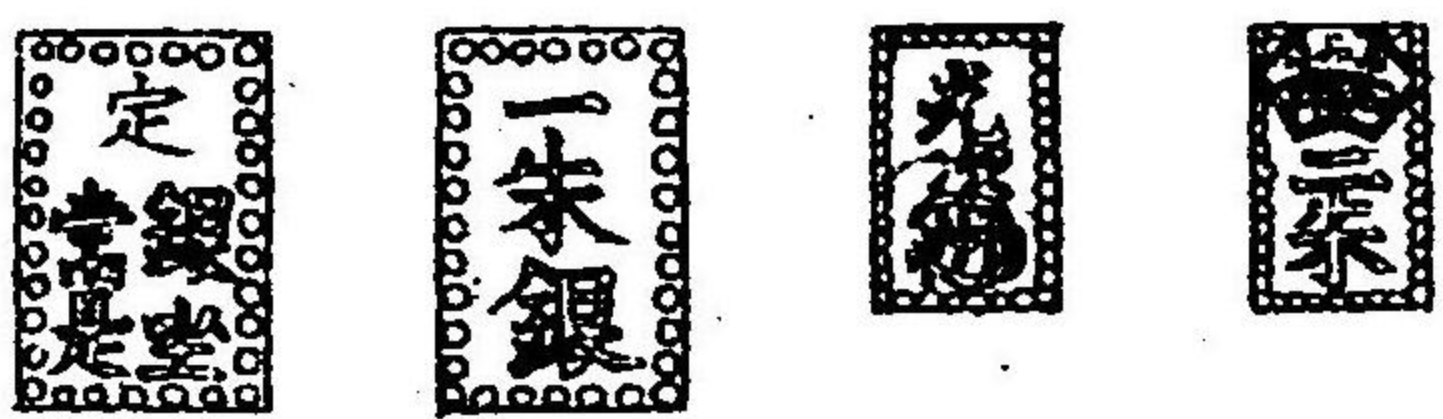
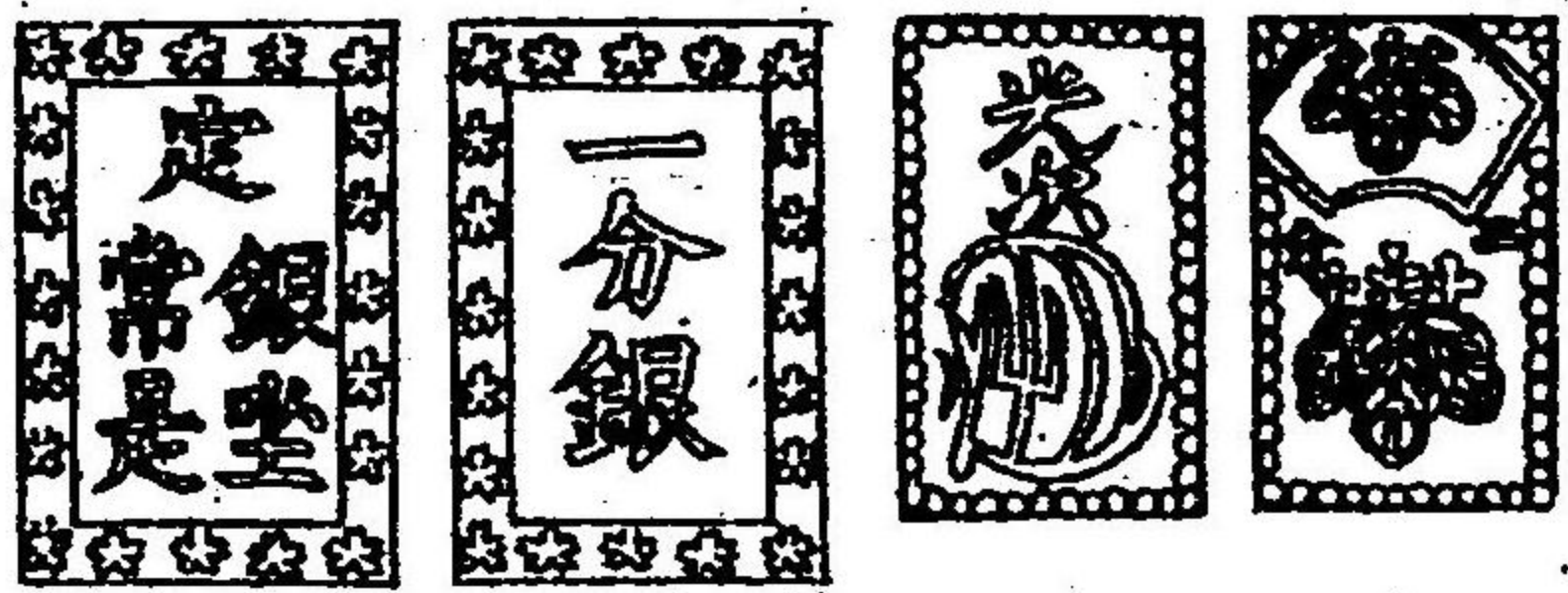
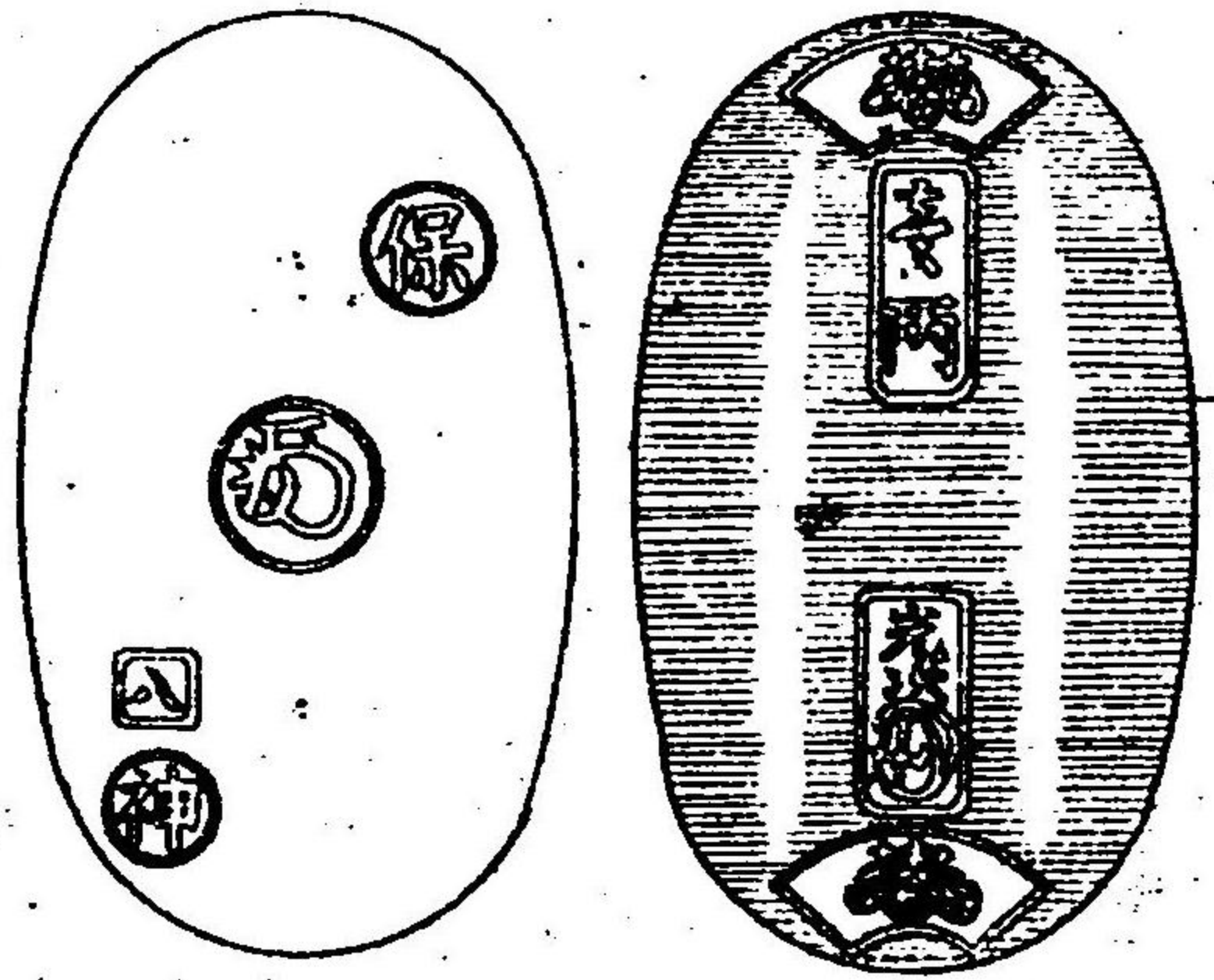


べからば
これい蠶を養ひ絲を繅る所なり○數多の女皆朝早く
起き夜中までも眠らざりて
髪も結をず日々息ふ間ふく
櫛けり○又二人の男あり桑
を採る所ふり○此男も野
出で耕す人と同しく耐も
軽も露をよ力を盡して働け
り○此の如く數多の男女の
苦勞して製するは非が糸

も生ぜず絹も得ること能はば○汝等暖なる衣を着た
るときは必蠶を養ひ絲を取る人々の若勞を忌む
べからば
爰は種々の貨幣あり



右四品の貨幣を錢といふ幕府政を執るときより今
 日までも通用するものは是なり



此五品の貨幣を金といふ幕府政を執るとき通用せ
 るものなり



右五品の貨幣を銀貨幣と云ふ

右五品の貨幣を金貨幣と云ふ



右三品を銅貨幣と云ふ、
此三種の貨幣ハ、朝廷の發行して當今の通用なり、



小銅錢一箇を一厘といひ、十厘を一錢といひ、百錢を一圓といふ故に、十二錢半を金貳朱と當とり、二十五錢を一分と當とり、五十錢を二分と當とるなり

小學讀本第一終

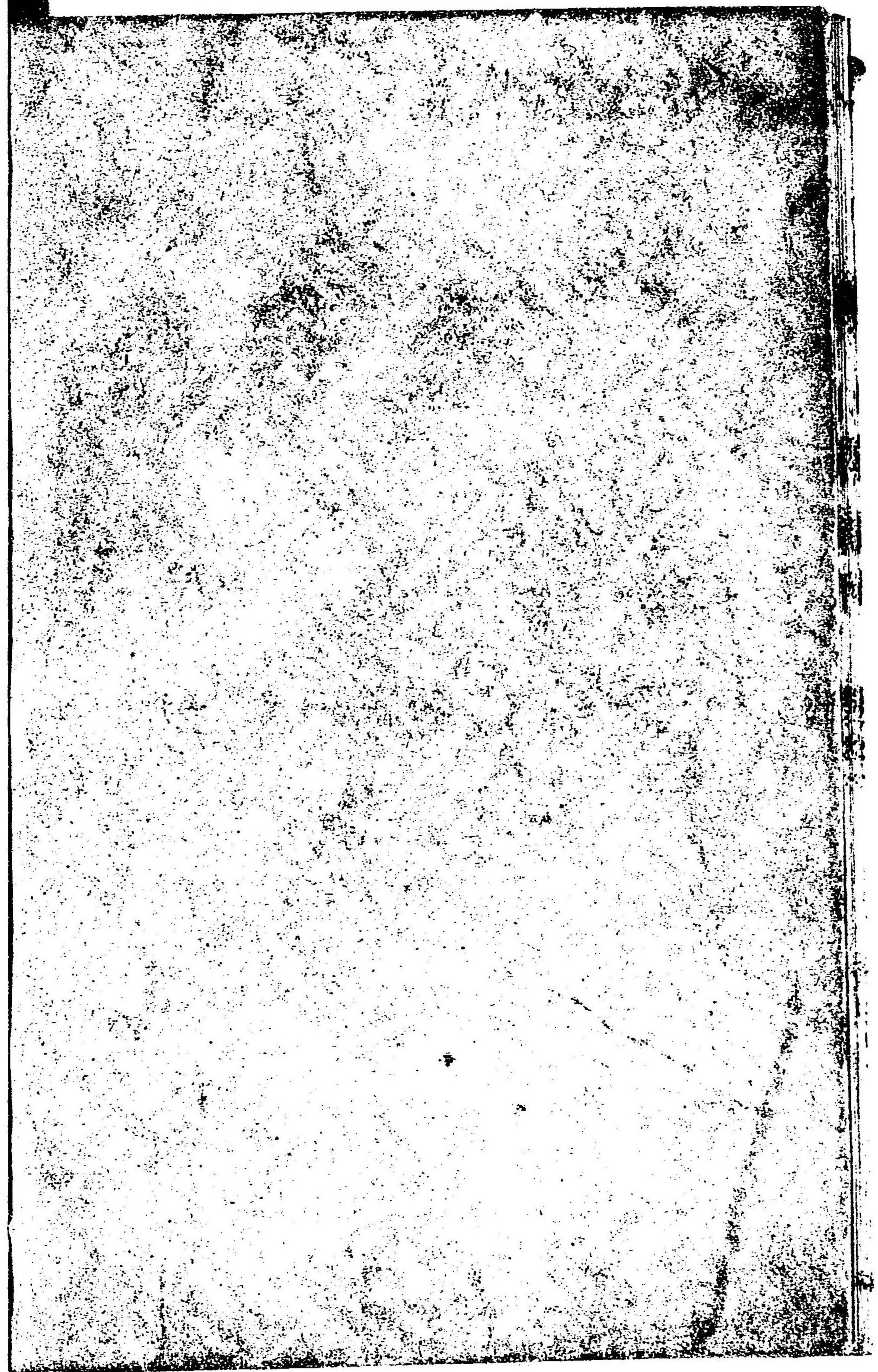
明治九年十二月十八日御届定價十錢

出版人 山中常七

東京 山中市兵衛

山中北郎

書林 山中孝之助



特71

491

301076-001-9

特71-491

小學讀本

文部省師範學校／編

M9. 12

BEA-0008

